

# 大学生活は、 彼らに何を残したのか？

20代のキャリアと学生時代の経験に関する調査報告書

# 目次

調査概要	5
Part 1 大学生活の実態と評価	10
Part 2 就職活動の実態と評価	20
Part 3 初期キャリアの適応の実態	28
Part 4 現状評価と自我アイデンティティの確立	34
付録 調査票見本（単純集計値入り）	41

## ■調査概要

### 【調査の目的】

本調査は大学時代の生活実態あるいは就職活動内容が、その後の社会人としての適応、現状の自己評価などにどのような影響を与えるのかを調べることを目的として実施されたものである。

大学生の生活、就職活動など大学生の実態を明らかにする調査は数多く実施されている。また、社会人1年目から3年目の若年労働者に関する調査についても多くの調査が実施されている。だが、両者をつなぐ縦断的な調査は極めて少ないのが実情である。「大学と社会をどのように接続していくのか」というテーマは長く議論され今日においてはその重要性はますます高まってはいるが、それを実証的に探索するデータセットは充実していない。本調査は、そうした状況を踏まえて企画・設計されたものである。

### 【調査の設計】

#### 1) 調査対象者の設定

近年、大学進学率は50%を超え、大学生は極めて多様な能力・意識を持った集団となっている。これをひとくくりに「大学生」とみなし、その平均像を抽出することは、実態をミスリードすることにつながりかねない。

よって、本調査においては、その多様な集団の中でも、一定以上の学力を有し大手企業にも数多く就職を果たしているような上位大学一校を特定し、その大学（以下A大学）の卒業生（卒業後1～6年目）に調査を実施することとした。A大学は、首都圏にキャンパスを持つ、学生規模18,000人の総合大学である。なお、文科系学部と理科系学部では大学と社会の接続の状況・実態に差があるため、本調査ではその対象を文科系学部に絞った。

#### 2) 調査の構成

調査は大きく以下の4部によって構成されるものとした。

##### 1 大学生生活の実態と評価

大学生生活の実態、そこで形成された能力・態度、大学生生活に関する評価

##### 2 就職活動の実態と評価

就職活動の実態（開始・終了時期、応募・内定数、取り組みの熱心度）、就職活動の評価（入社企業満足度、入社企業志望度 など）

##### 3 初期キャリアの適応の実態

1年目の仕事の状況、会社・仕事・職場へのギャップ・適応状況、転職実態・意向

##### 4 現状評価と自我アイデンティティの確立

会社・仕事満足度、自我アイデンティティ形成状況

### 【実施概要】

調査対象：2004-2009 学部（理工学部を除く）卒業生 17,482 名

有効サンプル数：3725 名（回収率 21.3%）

（本報告書 Part1 以降では、次項の抽出条件に合致する 2137 サンプルのみを分析対象に用いた）

調査期間：2009 年 12 月～2010 年 2 月

調査方法：郵送調査

## 【回答者のプロフィール】

回答者の属性などを、本ページに示した。

性別

TOTAL	男性	女性	不明
3725	1306	2048	371
100	35.1	55.0	10.0

Q1 年齢

TOTAL	20代	30代	40代	50代	60代	無回答	平均(歳)
3725	3508	138	33	4	6	36	26.1
100	94.2	3.7	0.9	0.1	0.2	1.0	

上段=N

下段=%

Q2 就業形態

TOTAL	正社員・正職員	契約社員・嘱託	フリーター(社会人アルバイト)	パートタイマー	派遣	業務委託(一社専属)	業務委託(複数社と契約)	その他	無職	無回答
3725	2884	182	92	45	58	13	6	86	110	249
100	77.4	4.9	2.5	1.2	1.6	0.3	0.2	2.3	3.0	6.7

Q3 就職してからの年次

TOTAL	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目以降	無回答
3725	677	610	596	570	512	354	406
100	18.2	16.4	16.0	15.3	13.7	9.5	10.9

Q4 職種

TOTAL	営業職	事務職	企画職	サービス職	販売職	クリエイティブ職	専門職	技術職	ソフトウェア・ネットワーク技術職	その他	無回答
3725	786	1181	180	265	118	57	356	42	97	262	381
100	21.1	31.7	4.8	7.1	3.2	1.5	9.6	1.1	2.6	7.0	10.2

Q5 業種

TOTAL	農林漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援	郵便	サービス業	公務	無回答
3725	7	5	35	384	14	358	135	346	692	73	31	92	363	4	525	247	414
100	0.2	0.1	0.9	10.3	0.4	9.6	3.6	9.3	18.6	2.0	0.8	2.5	9.7	0.1	14.1	6.6	11.1

Q6 従業員数

TOTAL	4人以下	5~9人	10~19人	20~29人	30~49人	50~99人	100~299人	300~499人	500~999人	1000~1999人	2000~4999人	5000人以上	公務(官公庁)	無回答
3725	57	72	96	87	173	197	327	196	299	308	388	914	206	405
100	1.5	1.9	2.6	2.3	4.6	5.3	8.8	5.3	8.0	8.3	10.4	24.5	5.5	10.9

Q7 現在の年収

TOTAL	100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上600万円未満	600万円以上700万円未満	700万円以上800万円未満	800万円以上900万円未満	900万円以上1000万円未満	1000万円以上	社会人になって1年目なので答えられない	無回答
3725	74	182	787	1091	634	236	89	25	19	4	22	181	381
100	2.0	4.9	21.1	29.3	17.0	6.3	2.4	0.7	0.5	0.1	0.6	4.9	10.2

Q8 大学入学手段

TOTAL	一般入試(センター試験含む)	指定校推薦	キリスト教関連推薦	スポーツ推薦	その他推薦(AO、自己推薦など)	社会人	帰国子女	外国人留学生	海外就学経験者	編入学・転部試験	高等部からの内部進学	無回答
3725	2594	375	38	49	3	113	33	10	3	106	390	11
100	69.6	10.1	1.0	1.3	0.1	3.0	0.9	0.3	0.1	2.8	10.5	0.3

Q19 卒業後、就職までの状況

TOTAL	すぐ、民間企業に正社員として就職した	すぐ、公的機関または準公的機関に正規職員として就職	すぐ、正社員・正規職員以外の雇用形態に就職した	卒業した後、就職するまでにブランクの期間があった	就職しなかった	無回答
3725	2442	319	316	361	238	49
100	65.6	8.6	8.5	9.7	6.4	1.3



## 【分析対象者の抽出】

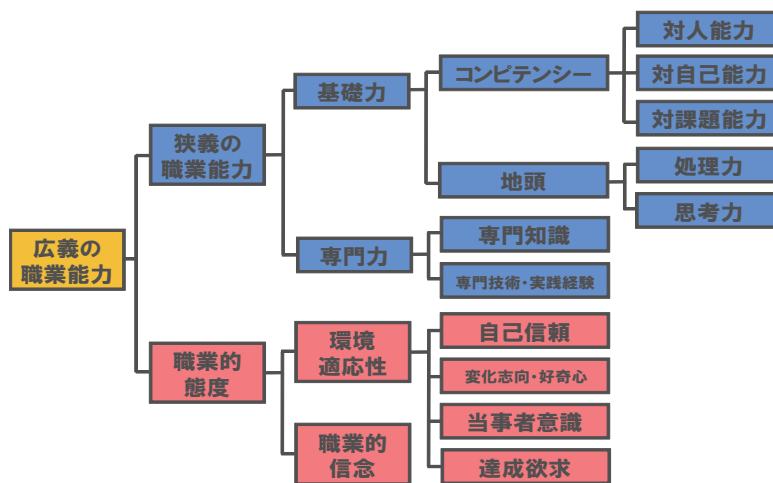
調査の分析においては、条件を統制するために、回答者の中から以下の対象を抽出して行った。

- ①卒業後すぐに民間企業に正社員として働いた人間に限定する。
- ②現在も働いている。
- ③男女の属性が不明なものは除く。

## 【変数の作成】

職業能力は、「基礎力」と「専門力」に大別されるが、大学卒業時まで形成された能力として、あらゆる仕事を行う上で必要になる汎用的な能力＝基礎力に着目した。基礎力の中でも「対人基礎力」「対自己基礎力」「対課題基礎力」にフォーカスした。五件法からなる設問3問によって構成されており、その合計得点(3-15)をスコアにした。高ければ高いほど、各基礎力が高いと認識していることになる。

職業能力・職業的態度 (「Works」No.102, 「新卒選考ルネサンス」ワークス研究所)



職業的態度は、環境適応性と職業的信念に大別され、前者は「自己信頼」「変化志向・好奇心」「当事者意識」「達成欲求」によって構成される。

「当事者意識」あるいは「自己信頼」と強く関係するものとしてローカスオブコントロールに着目した。「統制の所在」と和訳されるが、行動や評価の原因を自己や他人のどこに求めるかという教育心理学の概念であり、統制の所在が自己にある=Internal⇔統制の所在が他者にある=Externalの軸で構成されている。測定においては、鎌原らの尺度(鎌原雅彦、樋口一辰、清水直治、1982、「Locus of Control 尺度の作成と、信頼性、妥当性の検討」『教育心理学研究』30(4):302-307)を参照し、設問数を絞った簡易版を作成した。五件法からなる設問10問によって構成されており、その合計得点(10-50)をスコアにした。高ければ高いほど、Internalであると認識していることになる。

「変化志向・好奇心」と強く関係するものとしてG I A L (General Incongruity Adaptation Level)にも着目した。これは、「未知」「変化」「多様性」「楽観性」の4つからなる総合指標であり、国内においてはR-C-A-P (適職診断などを含んだキャリアアセスメントプログラム 株式会社リアセックが実施運営)に用いられている。本調査においてはその簡易版を作成し調査を実施したが、変数としての安定性が芳しくないため、分析の際の変数としての使用は見送った。

「自己信頼」と強く関係するものとして、信頼感(天貝由美子、1995「高校生の自我同一性に及ぼす信頼感の影響」『教育心理学研究』43(4):364-371)にも着目した。「自己への信頼」「他者への信頼」「不信」の3つの観点から構成されている尺度であり、本調査においては先行研究の結果を踏まえ、簡略化した尺度を作成した。五件法からなる設問3問によって構成されており、その合計得点(3-15)をスコアにした。高ければ高いほど、「自己への信頼」「他者への信頼」「不信」が高いと認識していることになる。

職業的信念は、職業・仕事経験を通じて形成されるものであり、大学生の時点では、ほとんど形成されていないものとみなされる。

それに代替するものとして、キャリア観に着目した。自身が仕事・キャリアを形成していく上での志向・価値観であり、本調査において探索的にその実態を調査し、因子分析を行って8つの志向を類型化した。結果は別表のとおりである。8つの志向は以下のような特徴を持っている。

- グロー志向／自身の成長・向上を強く望む志向
- エスケープ志向／仕事を人生の手段的に捉え、やや距離を取ろうとする志向
- ゴール志向／自身のキャリアビジョン・プランを明確に設定しようとする志向
- フィット志向／自分に合ったあるいは自分らしい職業・仕事に就くことを望む志向
- ワンダー志向／組織・集団への帰属意識が弱く、転職を厭わない志向
- リクエスト志向／自らが所属する企業により質の高い状況を求める志向
- ラブ志向／所属する組織や集団への愛着や一体感を重視する志向
- ステイタス志向／会社のステイタス、賃金の高さなどの外的要因を重視する志向

志向の尺度化に当たっては、各志向に該当する五件法の設問の回答結果を平均したものを得点とした。

キャリア観 因子得点表

	グロー志向	エスケープ志向	ゴール志向	フィット志向	ワンダー志向	リクエスト志向	ラブ志向	ステイタス志向
仕事を通じて、自分自身を成長させていきたい	0.5986	-0.2016	0.0619	0.2499	0.1528	0.2257	0.0844	-0.0076
勤勉に働くのは、大切なことだと思う	0.5638	0.0435	0.0722	0.0855	-0.1616	0.0368	0.0239	0.0026
仕事を通じて、高い専門知識や技術を身につけたい	0.5312	-0.0754	0.3591	0.1562	0.0714	-0.0287	-0.0270	0.0035
働くのは、自立した大人にとっては当然のことだと思う	0.4735	0.0455	-0.0366	0.0952	-0.0823	0.0953	0.0274	0.1514
働いている時間を充実させることは、人生を充実させる上で重要だと思う	0.4684	-0.2348	0.1747	0.1892	0.0562	0.2051	0.1211	-0.0118
働くのは、自分自身の能力や人間性を高めるための手段である	0.4503	-0.1132	0.1976	0.1437	0.1233	0.2215	0.0531	0.0213
自分の能力・スキルは、自分が自律的に高めるべきだ	0.4115	-0.0768	0.1184	0.1237	0.0958	0.1184	-0.0383	0.0214
責任ある仕事を任せたい	0.3805	-0.3335	0.3096	0.1502	0.0831	0.2492	0.0358	0.1251
所属する会社を成長・発展させるために働きたい	0.3688	-0.1580	0.3153	-0.0595	-0.1283	0.2126	0.1982	-0.0017
何かを得るための手段としてよりも、働くこと自体を楽しみたい	0.3045	-0.2564	0.1786	0.2285	-0.0234	0.2118	0.2776	-0.2019
働いている時間より、プライベートの時間のほうが大切だ	-0.1426	0.6747	-0.0741	0.0160	0.0912	0.1086	-0.0180	0.0794
普通に働いて、それなりの暮らしができれば十分だ	0.0500	0.5711	-0.1622	0.0002	-0.2382	-0.0617	0.0741	-0.1073
働いている時間とプライベートの時間をはっきりと区別したい	0.0660	0.5221	0.0240	0.0739	0.1240	0.1311	-0.1427	0.1442
自分にとって、働くことはお金を得る為の手段にすぎない	-0.1865	0.5118	0.1757	-0.1228	0.0632	-0.1912	-0.0950	0.2443
キャリアの勝ち組にはなれそうにない	-0.0665	0.4639	-0.0667	0.0018	-0.0198	-0.0526	-0.0141	-0.2414
緊張感のある職場では、働きたい	-0.2179	0.4189	0.0622	0.0976	-0.0619	0.1307	0.1969	-0.0813
自分の専門領域を早くに決めたい	0.1501	0.1544	0.5072	0.1221	0.0230	-0.0428	-0.0194	-0.0789
5年後、10年後のキャリアプランを明確に決めて働きたい	0.2679	-0.1014	0.4883	-0.0375	0.0869	0.1376	-0.0066	0.0292
やりたいことができないのなら、働く意味がないと思う	-0.0440	0.0021	0.4465	0.1156	0.1498	0.2505	0.0829	-0.1435
キャリアの勝ち組になりたい	0.2486	-0.3026	0.4371	0.0851	0.1231	0.0299	0.1383	0.4020
仕事のやり方・進め方は自分に任せてほしい	0.0889	-0.0501	0.4288	0.1360	0.1175	0.2940	0.0187	0.0832
自分の進む道(職業・仕事)は、誰に何と言われようと自分で決めたい	0.1803	-0.1112	0.3066	0.2452	0.1684	0.2229	-0.0226	-0.1442
自分に合った職業・仕事に就きたい	0.2529	0.0710	0.0330	0.7888	0.0994	0.1434	0.0656	-0.0082
自分らしい職業・仕事に就きたい	0.2245	-0.0347	0.1340	0.6271	0.0646	0.1549	0.1093	-0.1126
自分の適性に合った仕事の機会を提供してくれる会社で働きたい	0.2163	0.1137	0.1735	0.5414	-0.0111	0.1888	0.0798	0.1253
自分にとってよりよい会社があれば、転職するのに抵抗はない	0.0763	0.1379	0.1386	0.0621	0.7797	0.0116	-0.0115	-0.0932
自分のためにならない会社なら、転職するだろう	0.1138	0.0650	0.2074	0.1274	0.6407	0.2054	-0.0173	-0.0182
一つの会社で長く働きたい	0.2240	0.2216	0.0233	0.0134	-0.5901	0.0043	0.1585	0.1306
ビジョン・理念に共感できない会社では、働きたい	0.1862	0.0194	0.1132	0.1840	0.0359	0.4353	0.0652	-0.0345
一方的に指示命令を受けるようなスタイルの会社では働きたい	0.1153	-0.1325	0.1913	0.2266	0.2089	0.4067	0.0116	0.0764
社会のためよりも、自社の利益の追求のために事業を行っているような会社では、働きたい	0.1389	0.0894	0.0662	0.0432	-0.0061	0.3691	0.0416	-0.1157
社員の成長をサポートしてくれない会社では、働きたい	0.2094	0.1876	0.0682	0.1201	0.0455	0.3400	0.0890	0.1226
会社・職場の人々とは、友達のような関係でいたい	0.0151	0.0715	0.1145	0.1280	-0.0164	0.1012	0.7232	0.0153
会社・職場の人々とは、一定の距離を置いていたい	-0.0330	0.3535	0.2062	0.0135	0.0907	0.0521	-0.4224	0.0228
働いている会社には、愛着や一体感を感じていたい	0.3840	-0.0645	0.0227	0.1364	-0.1937	0.2179	0.4188	0.0424
面白い仕事であれば、給与が少なくても構わない	0.0957	0.0192	0.0502	0.1259	0.0694	0.0802	0.1448	-0.5084
名前の知られた会社で働きたい	0.1426	0.1345	0.0287	0.0987	-0.0526	0.0143	0.1547	0.4402
フリーターとして働いてもいい	-0.2019	0.1719	0.1672	-0.0121	0.2075	-0.0122	0.0139	-0.3717

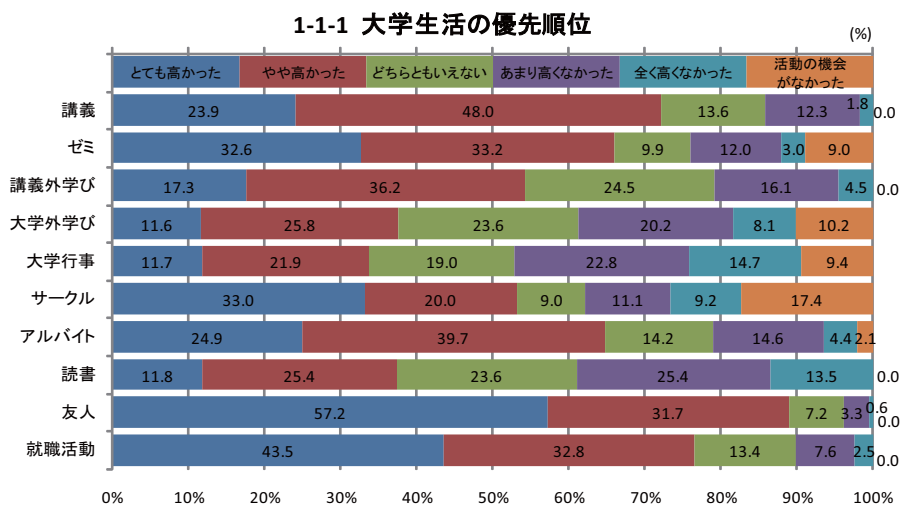
企業という新たな組織への入社を果たして以降の適応状況、リアリティショックの実態を探索するために、「最初の配属先の決定」「教育研修」「会社の事業方針・ビジョン」「社内ルール・常識」「担当した仕事内容」「評価のしくみ・実態」「上司」「同僚・先輩の能力や資質」「職場の人間関係」「勤務地」「勤務時間・休日」「給与・福利厚生」「会社に勤めるということ全般」に関してのギャップと適応状況を訊ねた。また、これらの回答結果のすべてを合計得点化し、後の分析に用いている。

本人の現状評価を測定する一側面として自我アイデンティティに着目した。仕事・キャリアの実態を測定する評価指標としては「会社満足度」「仕事満足度」などが代表的なものであるが、組織との関係あるいは仕事への取り組み姿勢だけではなくそれらの土台となる心理的・精神的な安定度合いに留意することがこの領域における研究においては重要であると考え、評価変数に加えた。測定においては、多次元自我同一性尺度を使用した（谷冬彦，2001，「青年期における同一性の感覚の構造——多次元自我同一性尺度（MEIS）の作成」『教育心理学研究』49：265-273）。「対自的同一性」「対他的同一性」「自己斉一性・連続性」「心理・社会的同一性」の4つの観点から構成されている尺度であり、エリクソンが定義したアイデンティティの多義性を立体的に把握する尺度である。各項目は五件法からなる設問5間によって構成されており、その合計得点（4-20）をスコアにした。高ければ高いほど、各同一性が高い状態であると捉える事が出来る。

# Part 1 大学生生活の実態と評価

## 1-1 大学生生活の優先順位・考え方や価値観の変化

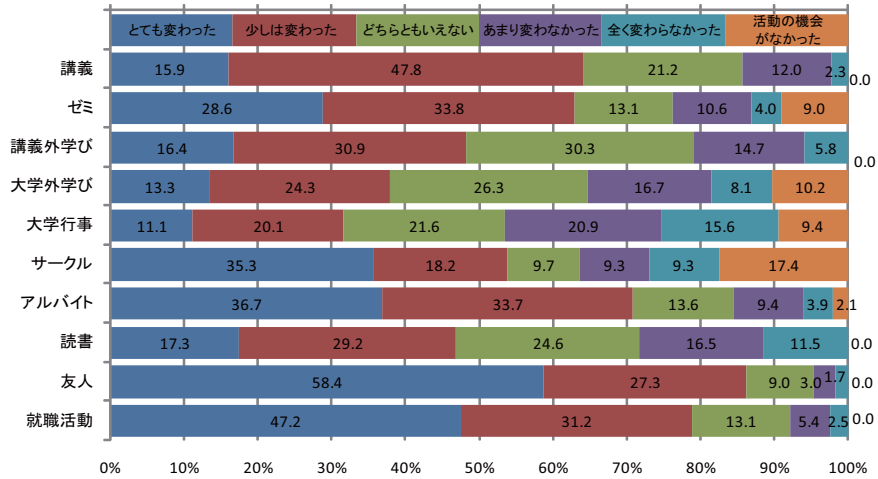
大学生生活には、講義・ゼミなどの学び、サークル・アルバイト・友人との交流など様々な要素があるが、人それぞれにその優先順位は異なる。その状況をとりまとめたのが図1-1-1である。全体を概観すると、何かが大きく突出するという傾向はなく、優先順位が多様なものに分散しているということも見てとれるが、その中でも「友人との交流」の優先順位がとて高かったあるいはやや高かったと答えた人は88.9%にのぼり、大学生生活のもっとも重要なファクターであることが分かる。次いで、就職活動(76.3%)、講義(71.9%)、ゼミ(65.8%)、アルバイト(64.6%)と続く。正課教育の優先順位の高さもうかがえるが、就職活動・アルバイトなどの副次的な項目がそれと拮抗している。なお、かつての大学生の代名詞であった「サークル」の優先順位の高さは53.0%と講義外学び(53.5%)を下回る。しかし、優先順位が「とても高かった」という回答を見ると、友人(57.2%)、就職活動(43.5%)に次いでサークル(33.0%)が位置し、ゼミ(32.6%)、講義(23.9%)より高い数値を示している。サークルの「活動の機会がなかった」人は17.4%にのぼるなど、この活動に参加する人の数は多くはないが、一方で優先順位が「とても高かった」という人が多いこともこの活動の特徴である。



こうした大学生生活での各項目での経験が、自身の考え方や価値観の変化をもたらす。その状況をとりまとめたのが図1-1-2である。優先順位同様に、友人(とても変わった+少しは変わった=85.7%)、就職活動(78.4%)が高く、次いでアルバイト(70.4%)、講義(63.7%)、ゼミ(62.4%)と続く。ここでも、正課教育以外の項目の高さがうかがえる。「とても変わった」という数値に着目すると、友人との交流(58.4%)、就職活動(47.2%)、アルバイト(36.7%)、サークル(35.3%)、ゼミ(28.6%)と続く。優先順位同様に、サークル活動が自身の考え方や価値観に及ぼす影響は、相対的に高いといえる。

優先順位が特に高い、強く変化をもたらしたという項目に共通するのは、「人間関係の濃密性」「集団の凝集性」である。大学生は、そのような状況から、多くの「学び」を獲得していると推測される。

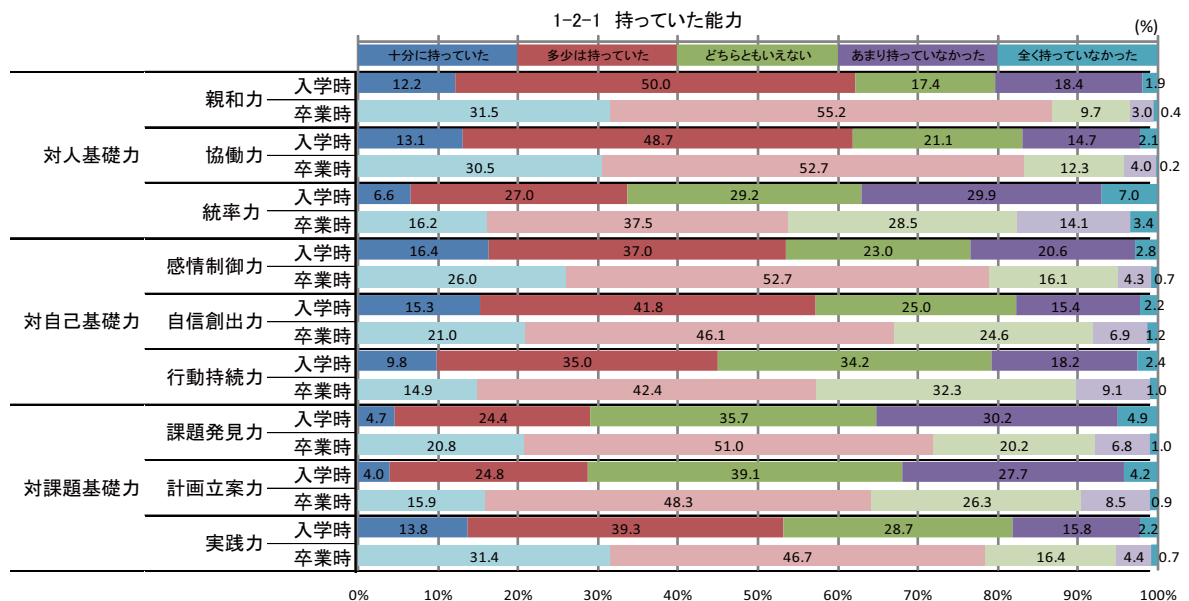
### 1-1-2 大学生活での考え方や価値観の変化

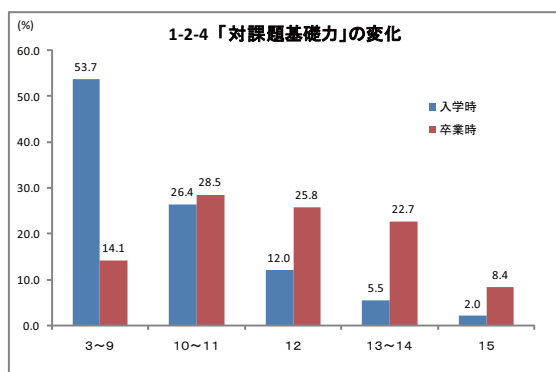
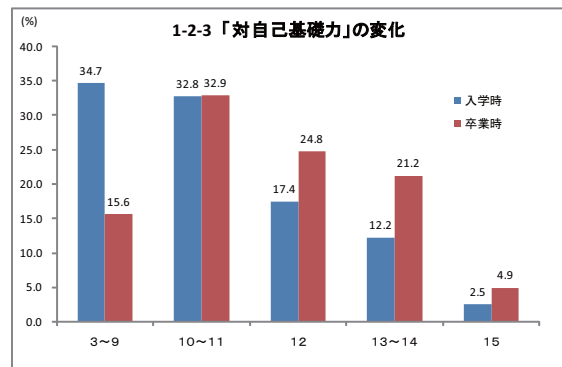
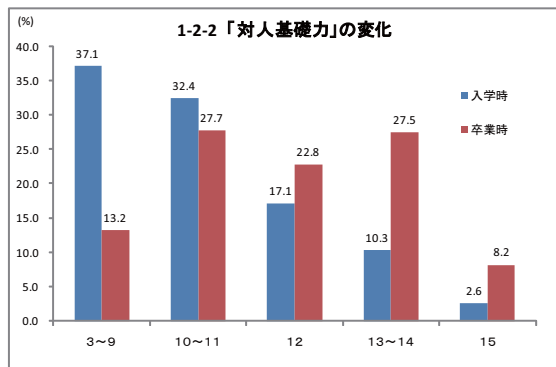


## 1-2 大学時代に獲得した能力・態度

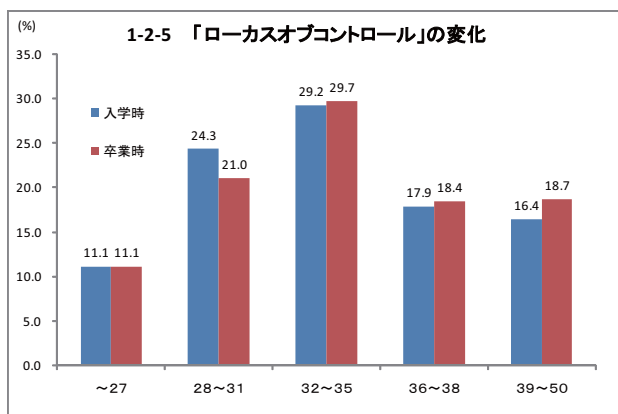
上記のような大学生活とその中の多様な経験を通じ、大学生は、さまざまな職業能力・職業的態度を身につけていく。その能力のうちの汎用的能力＝基礎力の入学時および卒業時の保有・獲得状況をきいたところ、いずれの項目においても入学時から卒業時にかけての大きな上昇がみられた（図1-2-1、1-2-2、1-2-3、1-2-4）。卒業時に各基礎力を「十分に持っていた」あるいは「多少は持っていた」とする比率は、親和力（86.7%）、協働力（83.2%）、感情制御力（78.7%）、実践力（78.1%）と続く。特に、課題発見力（入学時29.1%→卒業時71.8%）、計画立案力（入学時28.8%→64.2%）の相対的な向上が顕著であり、大学生活の中で課題発見力・計画立案力などが磨かれる機会は多いと言ってよいだろう。

大学で身につく能力としては、専攻分野の体系的な知識があげられる。これは専ら「講義」「ゼミ」によって形成されるものと考えられるが、基礎力はそれだけとは限らない。前述の多様な経験機会を通じて、総合的に形成されるものと想定される。





職業的態度の一側面であるローカスオブコントロールの入学時および卒業時のスコアを測定したところ、入学時から卒業時にかけての大きな変化はみられなかった(図1-2-5, 1-2-6)。卒業時に向けて若干の増加がみられるが、これをもって大学時にローカスオブコントロールの数値が変化するとは断定できない。



1-2-6 「ローカスオブコントロール」データ クロス表 (%)

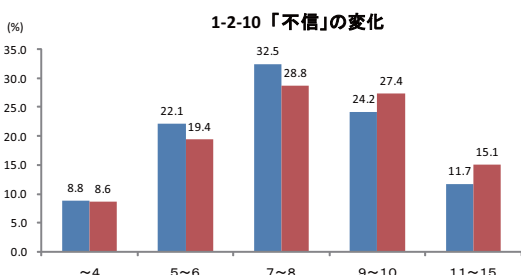
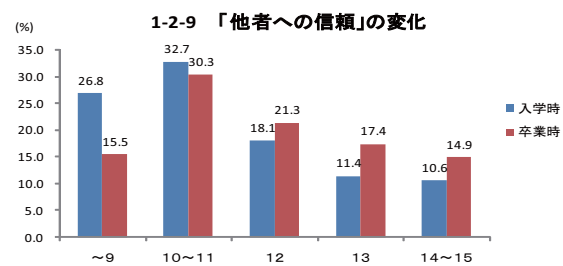
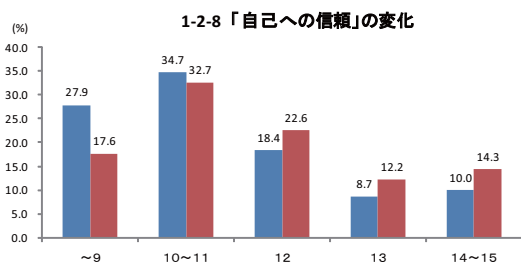
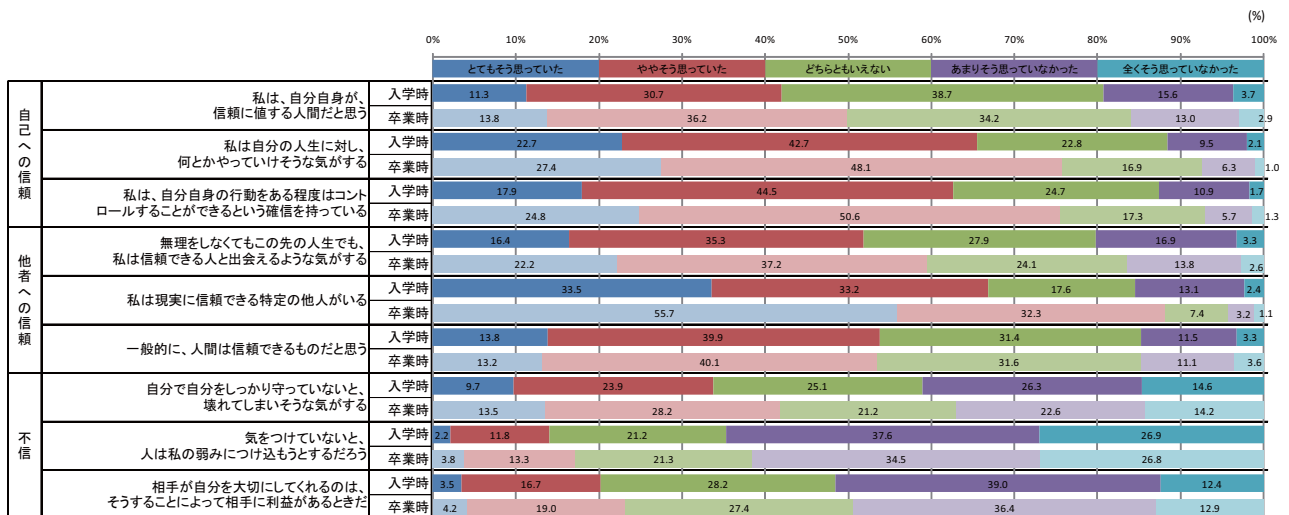
		入学時						
	N	~27	28~31	32~35	36~38	39~50	無回答	平均
TOTAL	2137	11.1	24.3	29.2	17.9	16.4	0.9	33.49
男性	791	11.6	24.9	31.0	15.4	16.6	0.5	33.36
女性	1346	10.8	24.0	28.2	19.4	16.3	1.2	33.56
1年目	450	12.7	25.3	29.1	15.8	16.0	1.1	33.18
2年目	412	12.6	23.3	25.7	19.7	18.0	0.7	33.59
3年目	392	10.7	21.4	32.1	17.9	16.8	1.0	33.60
4年目	362	8.6	26.8	28.5	16.6	18.0	1.7	33.68
5年目	303	10.9	25.4	32.3	17.8	13.2	0.3	33.31
6年目以降	218	10.6	23.9	28.0	21.6	15.6	0.5	33.66
		卒業時						
	N	~27	28~31	32~35	36~38	39~50	無回答	平均
TOTAL	2137	11.1	21.0	29.7	18.4	18.7	1.1	33.79
男性	791	9.9	20.1	27.1	19.1	23.1	0.8	34.31
女性	1346	11.8	21.5	31.2	18.0	16.1	1.3	33.48
1年目	450	12.9	22.0	30.7	14.7	18.7	1.1	33.46
2年目	412	12.1	22.1	26.7	18.4	19.7	1.0	33.79
3年目	392	12.2	19.6	26.5	21.2	18.9	1.5	33.89
4年目	362	8.6	22.9	27.3	19.9	19.3	1.9	34.02
5年目	303	9.9	18.2	35.6	20.5	15.5	0.3	33.81
6年目以降	218	9.2	20.2	34.4	15.6	20.2	0.5	33.92



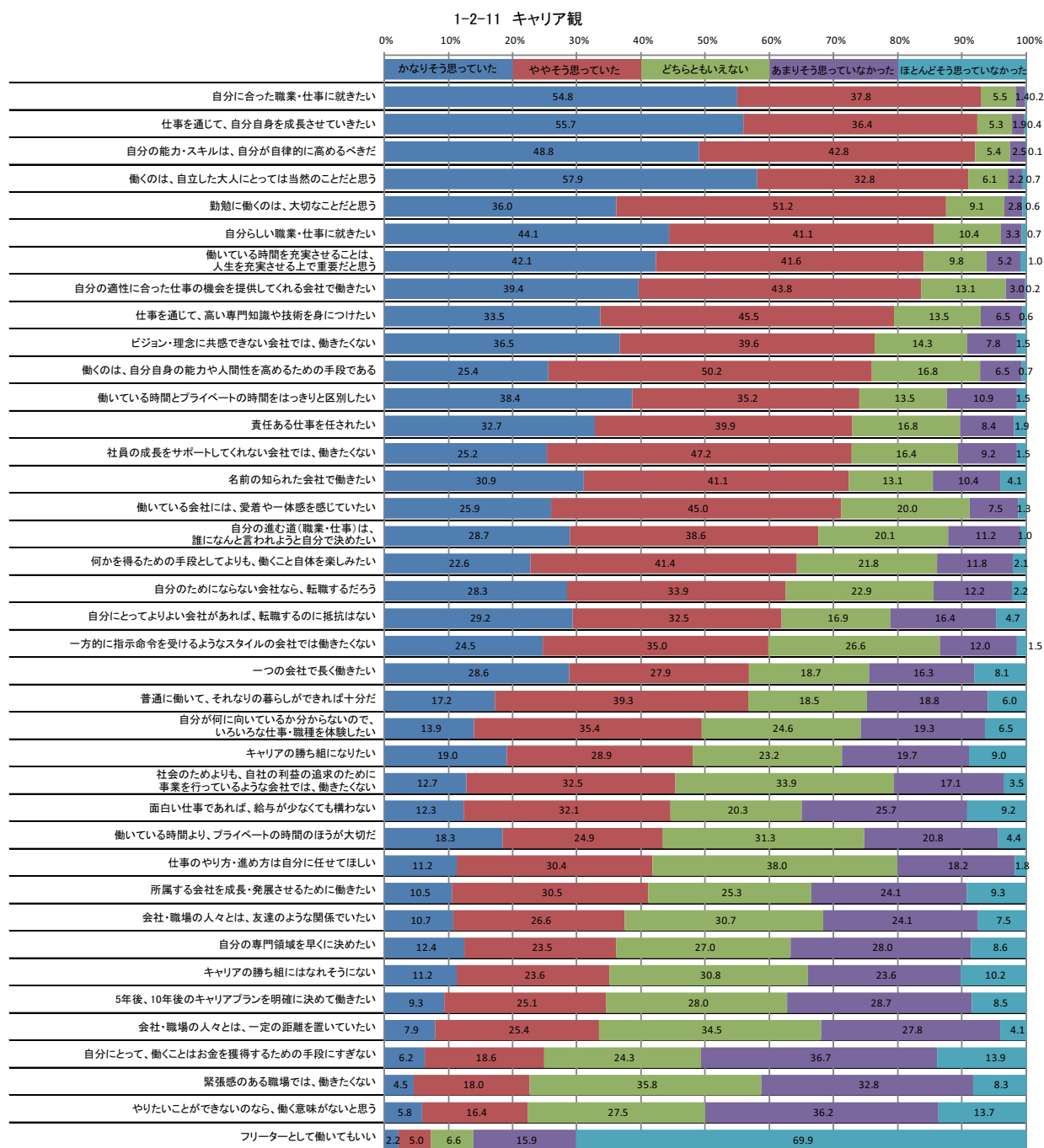
職業的態度の一側面である信頼感の入学時・卒業時のスコアを測定したところ、自己への信頼・他者への信頼については入学時から卒業時にかけて「とてもそう思っていた」+「ややそう思っていた」の数値が増加傾向にある（図1-2-7、1-2-8、1-2-9、1-2-10）。特に他者への信頼の尺度の一部を構成する設問（「私は現実に信頼できる特定の他人がいる」）の数値は入学時（66.7%）→卒業時（88.0%）と大きく上昇している。大学時代の優先順位の高かった「友人との交流」を通し、こうした信頼できる友人・知人との出会いが果たされているということがうかがえる。だが、「不信」のスコアも入学時から卒業時にかけて上昇している。自己への信頼・他者への信頼の形成が進む一方で、社会あるいは不特定他者に対する不信の感情が高まっているという点は注目に値する。

この結果から、職業的態度の中には、大学生以前に、基本的な態度として形成されるもの、大学時代にも進化形成されるものがあること、また変化の方向は必ずしも望ましいものばかりではないことが想定される。

1-2-7 信頼感



職業的態度の側面であるキャリア観を構成する各設問の回答結果は図1-2-11のとおりである。「自分に合った職業・仕事に就きたい」「仕事を通じて自分自身を成長させていきたい」「自分の能力・スキルは自分が自律的に高めるべきだ」といった価値観の強さが顕著な結果として表れている。キャリア観の8つの志向に注目すると(図1-2-12)、フィット志向(4.30)、グロー志向(4.04)という志向の高さが顕著である。これらは多くの回答者が強く志向しているものであるといえる。ラブ志向(3.30)、エスケープ志向(3.20)、ゴール志向(3.18)は、それらを強く志向する人としていない人に大別されている。男女差を見るとゴール志向(男3.43、女3.04)、グロー志向(男4.13、女3.99)の差が顕著である。





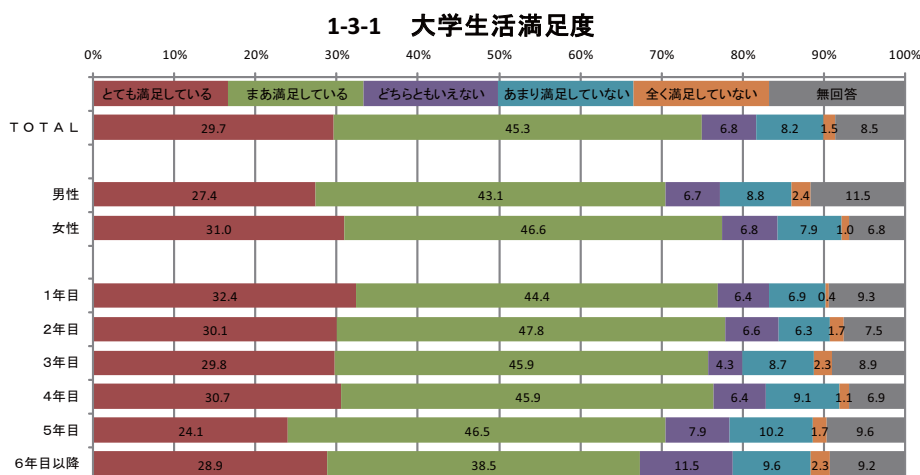
1-2-12 キャリア観データ

	N	グロー志向	エスケープ志向	ゴール志向	フィット志向	ワンダー志向	リクエスト志向	ラブ志向	ステイタス志向
TOTAL	2137	4.04	3.20	3.18	4.30	3.64	3.73	3.30	3.73
男性	791	4.13	3.14	3.43	4.23	3.69	3.75	3.31	3.66
女性	1346	3.99	3.24	3.04	4.35	3.61	3.72	3.30	3.77
1年目	450	4.06	3.26	3.21	4.37	3.67	3.83	3.33	3.67
2年目	412	4.03	3.26	3.14	4.31	3.62	3.73	3.33	3.73
3年目	392	4.02	3.20	3.17	4.34	3.63	3.73	3.28	3.75
4年目	362	4.02	3.14	3.20	4.25	3.63	3.73	3.25	3.74
5年目	303	4.05	3.15	3.16	4.27	3.64	3.62	3.30	3.73
6年目以降	218	4.08	3.13	3.22	4.21	3.66	3.65	3.31	3.82

これらの志向・価値観は、大学時代に、特に就職活動を通して形成されたものと、それ以前に形成されたものがあると考えられる。また、環境適応性同様に、早期に形成され変わりにくいものと、大学卒業後も、さまざまな経験を通じて形成・変化するものがあると考えられる。

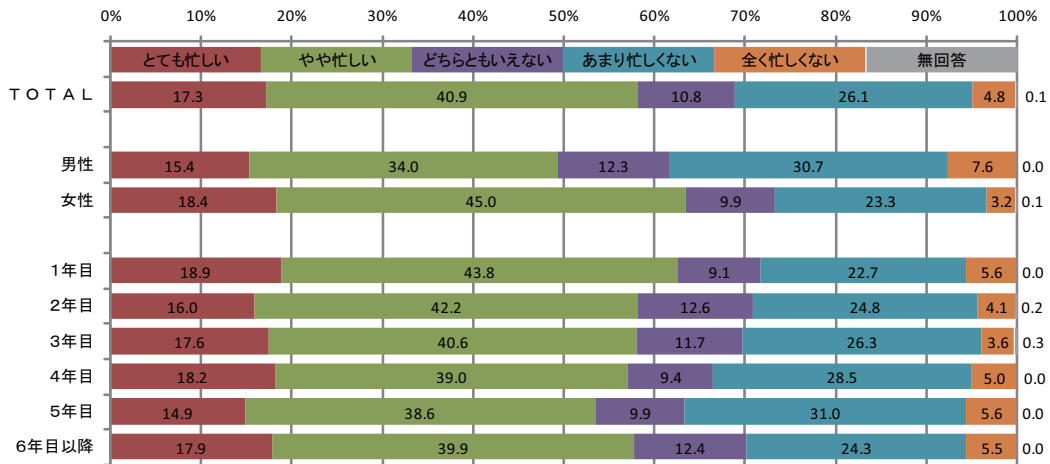
### 1-3 大学生活評価

大学生生活の満足度を問うたところ（図1-3-1）、「とても満足している（29.7%）」、「まあ満足している（45.3%）」と7割以上が満足しているという結果となった。男性に比べ女性の方が満足度が高いという傾向が見とれる。また、卒業後5年目、6年目以降に比べ4年目以前の満足度が高い傾向がある。



大学生生活の忙しさを聞いたところ（図1-3-2）、「とても忙しい（17.3%）」、「やや忙しい（40.9%）」と約6割が忙しさを感じている。男性に比べて女性がより忙しさを感じており、また、近年卒業した人ほど忙しさを感じる傾向にある。

### 1-3-2 大学生生活の忙しさ

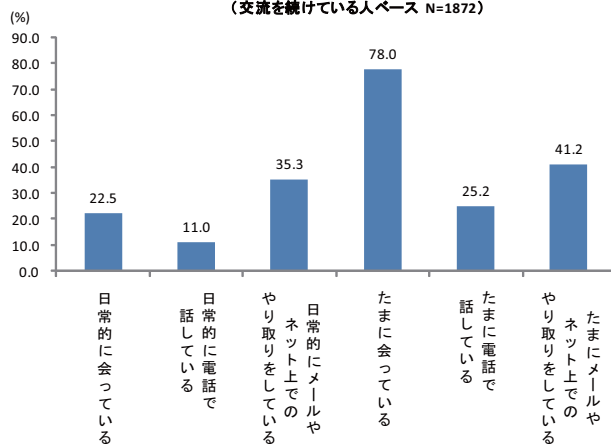


大学時代の友人との交流が現在も続いているかと聞いたところ（図1-3-3）、「多くの友人との交流を続けている（18.8%）」「特定の友人との交流を続けている（68.8%）」と9割近くの人が現在も大学時代との友人との交流を続けていることがわかった。「日常的に会っている（22.5%）」、「日常的にメールやネット上でのやり取りをしている（35.3%）」とそれらの交流がかなり濃密に続いているということもうかがえる（図1-3-4）。

1-3-3 大学時代の友人との交流 (%)

	N	多くの友人との交流を続けている	特定の友人との交流を続けている	大学時代の友人との交流は、ほとんどない	無回答
TOTAL	2137	18.8	68.8	6.2	6.2
男性	791	17.6	65.4	9.5	7.6
女性	1346	19.5	70.8	4.2	5.4
1年目	450	24.0	66.0	5.3	4.7
2年目	412	16.7	71.4	5.8	6.1
3年目	392	20.9	65.8	6.1	7.1
4年目	362	18.2	69.1	6.4	6.4
5年目	303	15.2	70.0	7.9	6.9
6年目以降	218	14.2	72.9	6.0	6.9

1-3-4 交流の内容  
(交流を続けている人ベース N=1872)



## 1-4 「大学生生活の優先順位・考え方や価値観の変化」が「大学時代に獲得した能力・態度」「大学生生活評価」に与える影響

大学生生活の優先順位あるいは考え方・価値観の変化は、基礎力・態度・キャリア観あるいは大学生生活評価にどのような影響を及ぼすのだろうか。それらの相関係数を概観すると、両者に強い関係がみられるのはごく一部である（図1-4）。

1-4 「大学生生活の優先順位・考え方や価値観の変化」が「大学時代に獲得した能力・態度」に与える影響

	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	Locus of Control	信頼感／自己への信頼	信頼感／他者への信頼	信頼感／不信
優先順位／講義		0.201 ***	0.177 ***				
優先順位／ゼミ	0.121 ***	0.148 ***	0.189 ***	0.076 ***	0.079 ***	0.101 ***	
優先順位／講義外学び	0.110 ***	0.167 ***	0.142 ***	0.079 ***	0.061 ***		0.057 **
優先順位／大学外学び	0.053 *	0.141 ***	0.119 ***	0.094 ***			0.069 ***
優先順位／大学行事	0.260 ***	0.127 ***	0.109 ***	0.133 ***		0.120 ***	
優先順位／サークル	0.304 ***	0.072 ***	0.075 ***	0.100 ***	0.049 *	0.140 ***	-0.067 ***
優先順位／アルバイト							
優先順位／読書		0.045 *	0.057 **				0.067 ***
優先順位／友人	0.328 ***	0.107 ***	0.121 ***	0.206 ***	0.115 ***	0.250 ***	-0.138 ***
優先順位／就職活動	0.151 ***	0.159 ***	0.153 ***	0.115 ***	0.088 ***	0.089 ***	
変化／講義	0.096 ***	0.181 ***	0.188 ***	0.094 ***	0.054 *	0.065 ***	
変化／ゼミ	0.139 ***	0.129 ***	0.197 ***	0.111 ***	0.084 ***	0.113 ***	
変化／講義外学び	0.109 ***	0.156 ***	0.138 ***	0.101 ***	0.064 ***		0.088 ***
変化／大学外学び	0.067 ***	0.136 ***	0.119 ***	0.096 ***			0.067 ***
変化／大学行事	0.258 ***	0.098 ***	0.103 ***	0.132 ***		0.118 ***	
変化／サークル	0.288 ***	0.059 *	0.089 ***	0.100 ***		0.123 ***	

\* (有意水準5%) \*\* (有意水準1%) \*\*\* (有意水準0.1%)

	グロー志向	エスケープ志向	ゴール志向	フィット志向	ワンダー志向	リクエスト志向	ラブ志向	ステイタス志向	大学生生活満足度	大学時代の友人との交流	大学生生活の忙しさ
優先順位／講義	0.064 ***		-0.043 *	0.091 ***					0.082 ***		0.119 ***
優先順位／ゼミ	0.141 ***	-0.067 ***	0.059 **	0.078 ***		0.113 ***		0.049 *	0.059 **		0.052 *
優先順位／講義外学び	0.090 ***		0.044 *	0.083 ***							0.084 ***
優先順位／大学外学び	0.121 ***		0.140 ***	0.090 ***	0.057 *	0.078 ***					
優先順位／大学行事	0.070 ***	0.048 *	0.068 ***	0.088 ***		0.060 **	0.143 ***		0.119 ***	0.142 ***	0.081 ***
優先順位／サークル	0.083 ***			0.059 *		0.097 ***	0.143 ***		0.113 ***	0.139 ***	0.157 ***
優先順位／アルバイト	0.055 *					0.045 *	0.045 *		-0.051 *		
優先順位／読書	0.057 **	-0.043 *	0.086 ***		0.049 *	0.057 **	-0.102 ***	-0.112 ***			
優先順位／友人	0.065 ***			0.089 ***		0.075 ***	0.184 ***	0.102 ***	0.144 ***	0.225 ***	0.055 *
優先順位／就職活動	0.203 ***	-0.140 ***	0.045 *	0.096 ***		0.083 ***	0.135 ***	0.203 ***	0.072 ***		
変化／講義	0.133 ***			0.099 ***		0.084 ***			0.103 ***		0.121 ***
変化／ゼミ	0.172 ***	-0.080 ***	0.061 **	0.072 ***		0.141 ***	0.065 ***		0.057 *	0.062 **	0.056 *
変化／講義外学び	0.138 ***		0.086 ***	0.088 ***	0.043 *	0.071 ***			0.066 ***	0.069 ***	0.085 ***
変化／大学外学び	0.145 ***	-0.060 **	0.157 ***	0.077 ***	0.051 *	0.089 ***					
変化／大学行事	0.067 ***		0.055 *	0.078 ***		0.052 *	0.137 ***	0.059 **	0.111 ***	0.139 ***	0.094 ***
変化／サークル	0.077 ***			0.064 **		0.096 ***	0.138 ***		0.143 ***	0.154 ***	0.168 ***
変化／アルバイト	0.054 *			0.059 **			0.075 ***				
変化／読書	0.061 **	-0.053 *	0.044 *				-0.061 **	-0.100 ***			
変化／友人	0.074 ***			0.112 ***		0.083 ***	0.154 ***	0.089 ***	0.115 ***	0.214 ***	0.070 ***
変化／就職活動	0.169 ***	-0.114 ***		0.071 ***		0.058 **	0.150 ***	0.163 ***	0.053 *	0.068 ***	

\* (有意水準5%) \*\* (有意水準1%) \*\*\* (有意水準0.1%)

対人基礎力は優先順位／友人（相関係数0.328）、優先順位／サークル（0.304）との関連が強く、こうした行動経験を通じて対人基礎力が高まることが想定される。また、対自己基礎力・対課題基礎力、ローカスオブコントロール、信頼感／他者への信頼、グロー志向、ゴール志向、ラブ志向、ステイタス志向、大学時代の友人との交流、大学生生活の忙しさ、には、微弱ではあるがいくつかの項目に相関関係があることがうかがえる。その他の項目に関しては、いくつかの変数に有意な相関があることが確認できるが、その相関係数はきわめて小さいものであり、両者の間に何らかの関係が認められるとは断言できない。特に、こうした項目と関係があると予期された大学生生活満足度との関係を見ると、いずれの相関係数も0.15を下回っている。

この結果から想定されるのは、単に優先順位が高かった、つまり、多くの時間を費やしたという事実・認識や、何ら

かの価値観が変化したという事実・認識ではなく、その実態の違いによって満足度につながるもの、つながらないものの差があるということである。各回答者の認識ではなく、その実態を定性的に調査・探索していくことが重要である。

## 1-5 大学時代に獲得した能力・態度間の関係

大学時代に形成された能力・態度が相互にどのような関係にあるのか、あるいは影響を及ぼしあるいは及ぼされているのか。それぞれの相関係数をとると多くに密接な関係がみられる(図1-5)。たとえば、対人・対自己などの基礎力と、ローカスオブコントロール・自己への信頼・他者への信頼・あるいはグロー志向などは、高い相関関係にある。また、ローカスオブコントロールと、信頼感・グロー志向などのいくつかのキャリア観の間にも強い相関がある。信頼感とキャリア観の関係を見ると、自己への信頼とグロー志向・エスケープ志向(マイナス相関)、他者への信頼とグロー志向・ラ

1-5 「大学時代に獲得した能力・態度」間の関係

	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	Locus of Control	信頼感/自己への信頼	信頼感/他者への信頼	信頼感/不信
対人基礎力		0.339 ***	0.400 ***	0.337 ***	0.341 ***	0.308 ***	-0.148 ***
対自己基礎力	0.339 ***		0.461 ***	0.292 ***	0.344 ***	0.174 ***	-0.070 ***
対課題基礎力	0.400 ***	0.461 ***		0.257 ***	0.267 ***	0.144 ***	
Locus of control	0.337 ***	0.292 ***	0.257 ***		0.333 ***	0.310 ***	-0.196 ***
信頼感/自己への信頼	0.341 ***	0.344 ***	0.267 ***	0.333 ***		0.384 ***	-0.163 ***
信頼感/他者への信頼	0.308 ***	0.174 ***	0.144 ***	0.310 ***	0.384 ***		-0.289 ***
信頼感/不信	-0.148 ***	-0.070 ***		-0.196 ***	-0.163 ***	-0.289 ***	
グロー志向	0.274 ***	0.237 ***	0.265 ***	0.306 ***	0.249 ***	0.193 ***	
エスケープ志向	-0.172 ***	-0.104 ***	-0.127 ***	-0.238 ***	-0.172 ***	-0.059 **	0.110 ***
ゴール志向	0.144 ***	0.113 ***	0.182 ***	0.217 ***	0.131 ***	0.052 *	0.172 ***
フィット志向	0.158 ***	0.099 ***	0.137 ***	0.141 ***	0.119 ***	0.138 ***	
ワンダー志向	0.055 *		0.059 **			0.058 **	0.081 ***
リクエスト志向	0.170 ***	0.095 ***	0.146 ***	0.151 ***	0.136 ***	0.122 ***	
ラブ志向	0.209 ***	0.068 ***	0.061 **	0.158 ***	0.064 ***	0.207 ***	-0.133 ***
ステイタス志向	0.130 ***	0.075 ***	0.073 ***		0.107 ***		

\*(有意水準5%) \*\* (有意水準1%) \*\*\* (有意水準0.1%)

	グロー志向	エスケープ志向	ゴール志向	フィット志向	ワンダー志向	リクエスト志向	ラブ志向	ステイタス志向
対人基礎力	0.274 ***	-0.172 ***	0.144 ***	0.158 ***	0.055 *	0.170 ***	0.209 ***	0.130 ***
対自己基礎力	0.237 ***	-0.104 ***	0.113 ***	0.099 ***		0.095 ***	0.068 ***	0.075 ***
対課題基礎力	0.265 ***	-0.127 ***	0.182 ***	0.137 ***	0.059 **	0.146 ***	0.061 **	0.073 ***
Locus of control	0.306 ***	-0.238 ***	0.217 ***	0.141 ***		0.151 ***	0.158 ***	
信頼感/自己への信頼	0.249 ***	-0.172 ***	0.131 ***	0.119 ***		0.136 ***	0.064 ***	0.107 ***
信頼感/他者への信頼	0.193 ***	-0.059 **	0.052 *	0.138 ***	0.058 **	0.122 ***	0.207 ***	
信頼感/不信		0.110 ***	0.172 ***		0.081 ***		-0.133 ***	
グロー志向		-0.438 ***	0.508 ***	0.395 ***	0.180 ***	0.367 ***	0.308 ***	0.052 *
エスケープ志向	-0.438 ***		-0.214 ***	-0.072 ***	0.109 ***	-0.063 ***	-0.182 ***	
ゴール志向	0.508 ***	-0.214 ***		0.306 ***	0.283 ***	0.335 ***	0.092 ***	
フィット志向	0.395 ***	-0.072 ***	0.306 ***		0.195 ***	0.343 ***	0.211 ***	
ワンダー志向	0.180 ***	0.109 ***	0.283 ***	0.195 ***		0.216 ***		
リクエスト志向	0.367 ***	-0.063 ***	0.335 ***	0.343 ***	0.216 ***		0.158 ***	
ラブ志向	0.308 ***	-0.182 ***	0.092 ***	0.211 ***		0.158 ***		
ステイタス志向	0.052 *							

\*(有意水準5%) \*\* (有意水準1%) \*\*\* (有意水準0.1%)

ブ志向、不信とゴール志向の間に弱いながらも相関がみられる。

基礎力が高まれば、自己への信頼・他者への信頼が高まる。あるいは、ローカスオブコントロールが Internal になるほど、グロー志向・ゴール志向が高まり、エスケープ志向が減衰する。こういった相関関係は、十分に想定されるものではあるが、ゴール志向と不信のプラス相関は想定範囲外の相関関係である。

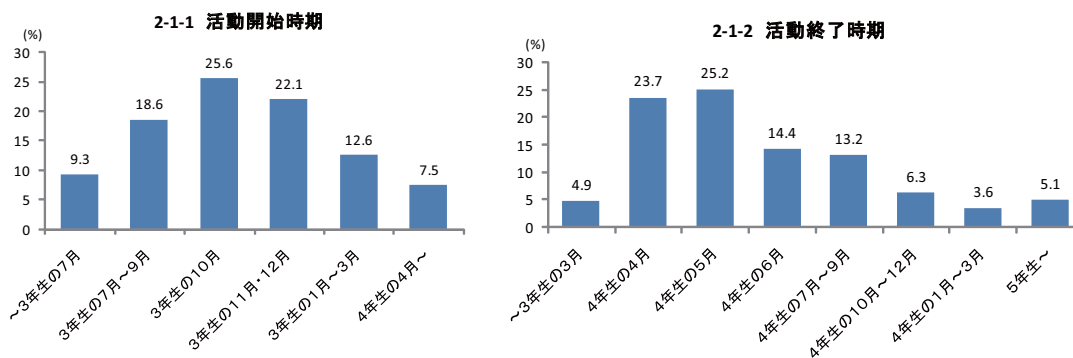
# Part 2 就職活動の実態と評価

## 2-1 就職活動の概況

### ●活動時期

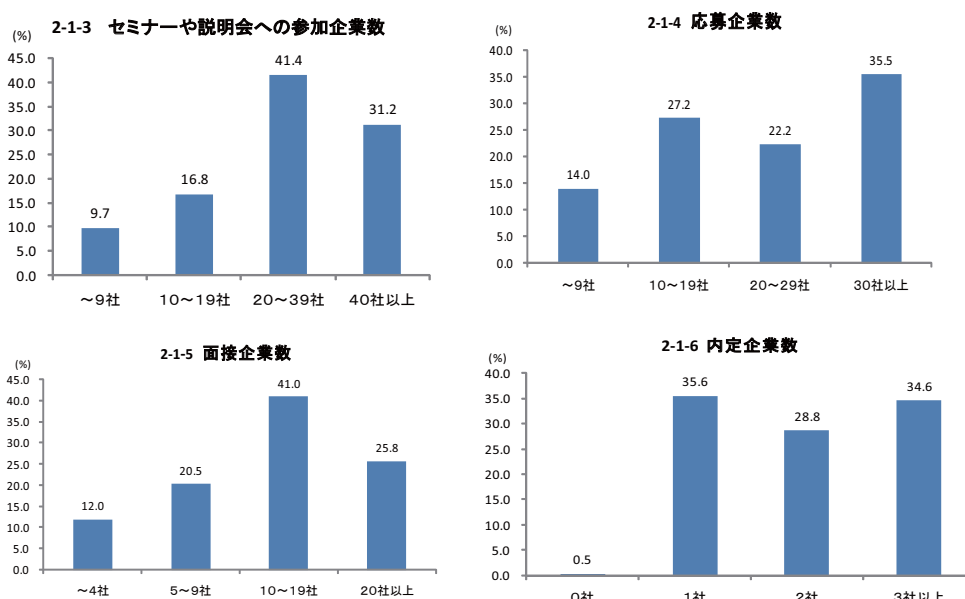
就職活動の開始時期および終了時期を聞いた（図2-1-1、2-1-2）。開始時期でもっとも多いのは3年生の10月（25.6%）であり、就職活動は3年生の夏休み前に始める人を皮切りに、3年生の10月に活動開始のピークを迎えるが、4年生の4月以降に始める人も7.5%いる。

3年生の3月までに就職活動を終了した人も4.9%存在するが、多くは4年生の4月（23.7%）、5月（25.2%）に終わっている。それ以降、漸減しながらも4年生の1月から3月まで続く。なお、5年生と表示されているのは留年生であるが、就職留年とは限らない。

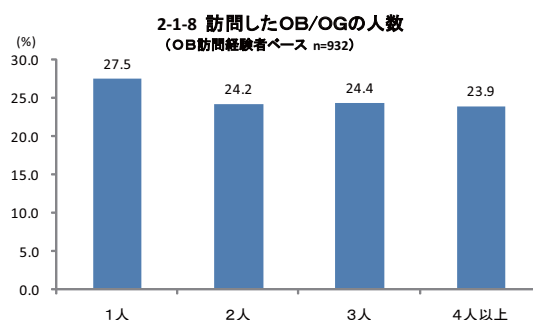
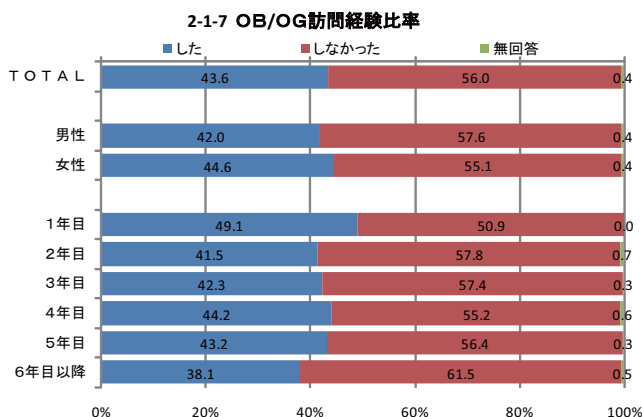


### ●活動量

セミナーや説明会への参加企業数（図2-1-3）は、20～39社が41.4%と最も高いが、40社以上の人も30%以上いる。応募企業数（図2-1-4）は、30社以上が35.5%と最も高く、面接企業数（図2-1-5）のピークは10～19社が41.0%である。内定企業数（図2-1-6）は、1社が35.6%だが、3社以上も34.6%存在する。

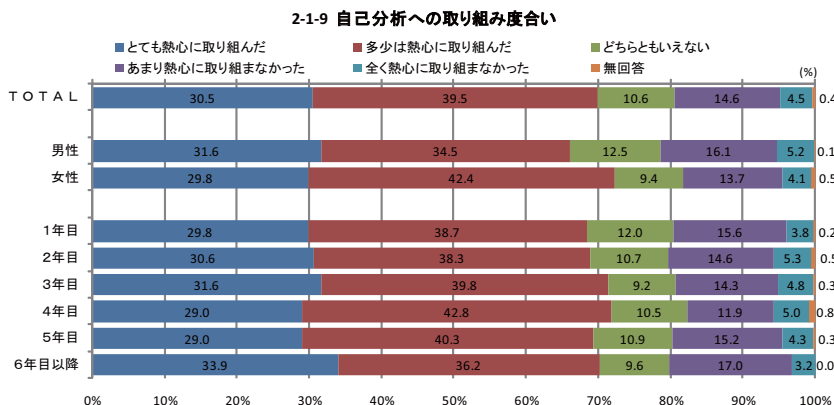


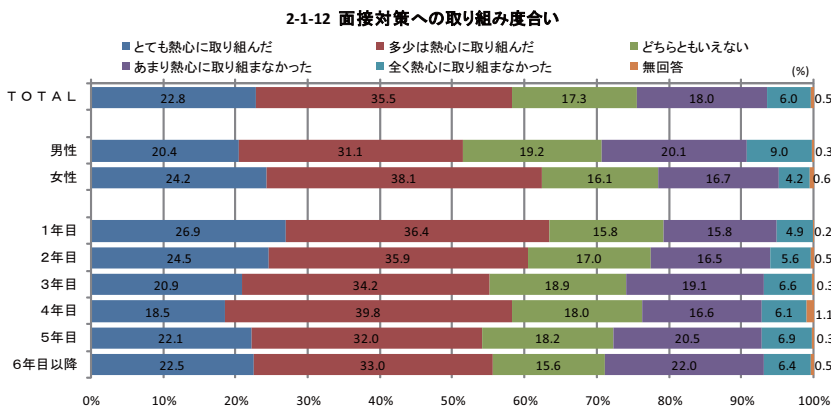
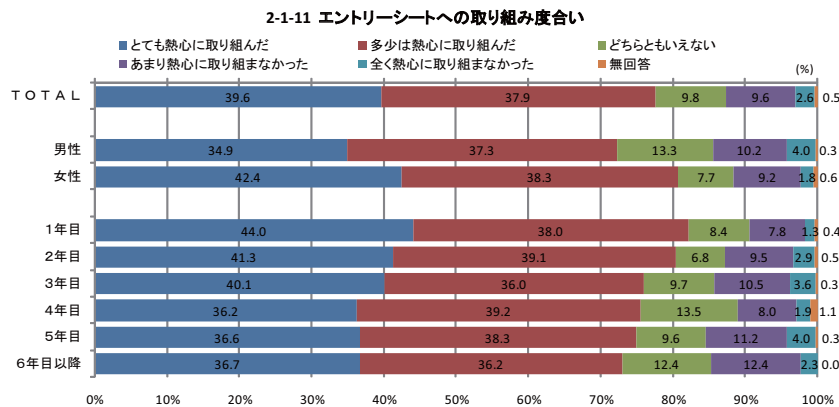
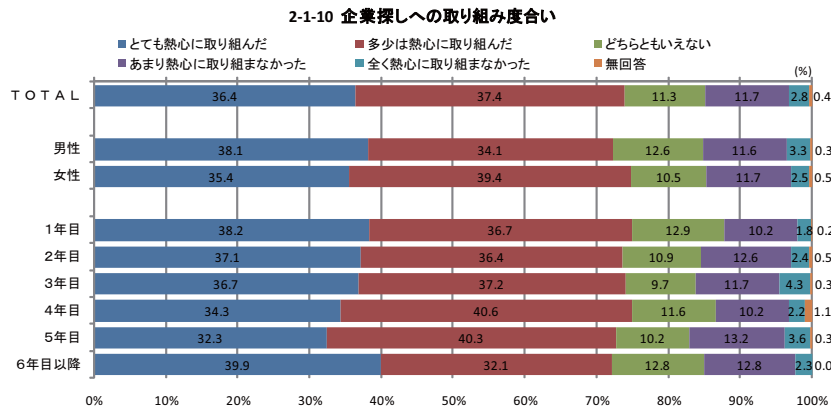
OB・OG訪問経験の有無を聞いたところ(図2-1-7)、43.6%が経験していると回答した。先行した調査(「20代キャリア/キャンパス調査」ワークス研究所、2009)における大学生全体の平均値(21.9%)よりかなり高い結果となっており、A大学クラスの就職活動の実態においてはOB・OG訪問をする比率が高いことが見てとれる。OB・OG訪問人数(図2-1-8)は、1人~4人以上がほぼ同じ水準で並んでいる。



## ●活動内容

就職活動の内容について聞いた。自己分析への取り組み、企業探しへの取り組み、エントリーシートへの取り組み、面接対策への取り組みの4つの取り組みについて、その取り組み度合いを聞いたところ(図2-1-9、2-1-10、2-1-11、2-1-12)、自己分析、企業探し、エントリーシートについては、7割以上の人々が「とても熱心に取り組んだ」ないしは「多少は熱心に取り組んだ」と答えている。また、面接に関しても、6割弱の人が「熱心に取り組んだ」と答えている。これらは、男性に比べて女性のほうが熱心に取り組むという傾向が顕著である。企業探し、エントリーシートへの取り組み、面接対策については、近年になるほどその活動の熱心度合いが増しているということが顕著に見て取れる。この変化は、景気の変動とは連動していない。就職活動が年々高度化し、学生もそれに対応するようにより高度に武装化していることがうかがえる。

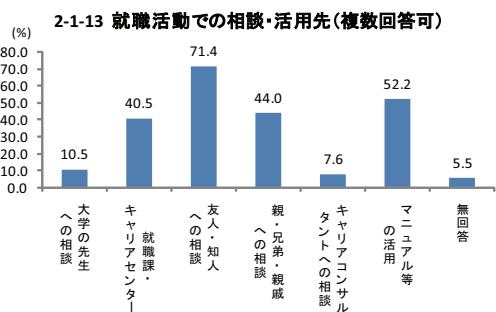




●就職活動での相談・活用先

就職活動において相談をしたり活用したりした人・チャネルについて聞いたところ（図2-1-13、2-1-14）友人・知人への相談が71.4%と最も高い数値を示した。次いでマニュアル等の活用（52.2%）、親・兄弟・親戚への相談（44.0%）、就職課・キャリアセンター（40.5%）と続いている。また、近年になるにつれて、ほぼすべての項目のスコアが高くなっている。ここからも、就職活動の高度化、大学生の武装化が見て取れる。また、キャリアセンターなどのサポート体制が年々充実していることもある。そのメリットを享受しているとも読み取れるが、親、大学などが過剰に世話を焼いているのではないかと批判とも整合的な結果である。





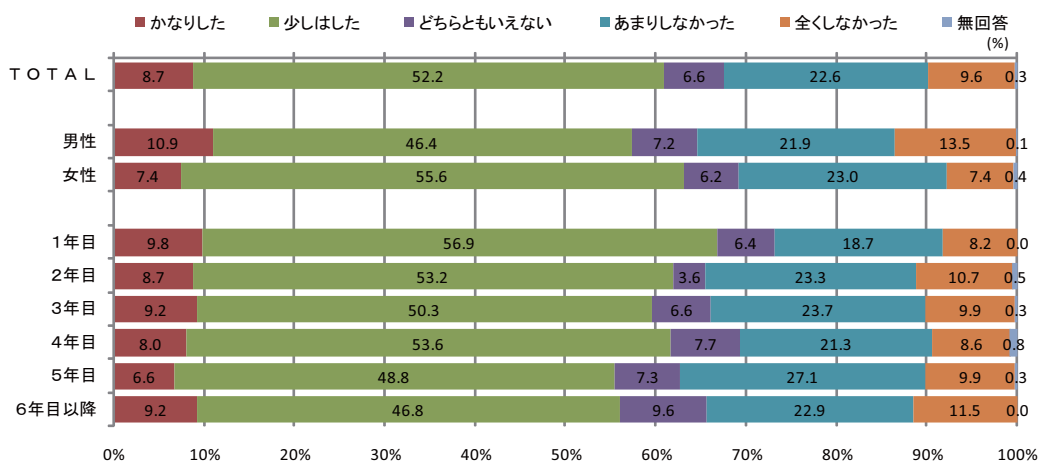
2-1-14 就職活動での相談・活用先(複数回答可) (96)

	N	大学の先生への相談	就職課・キャリアセンター	友人・知人への相談	親・兄弟・親戚への相談	キャリアコンサルタントへの相談	マニュアル等の活用	無回答
TOTAL	2137	10.5	40.5	71.4	44.0	7.6	52.2	5.5
男性	791	10.5	27.9	68.0	34.8	6.1	44.6	7.5
女性	1346	10.5	47.9	73.4	49.4	8.5	56.7	4.3
1年目	450	14.2	44.7	78.0	46.2	8.7	56.0	3.6
2年目	412	10.9	43.0	73.3	47.6	7.8	51.9	4.4
3年目	392	9.7	42.3	70.7	47.2	8.9	52.8	5.4
4年目	362	10.8	38.7	72.1	41.4	8.6	50.0	7.2
5年目	303	7.3	35.6	64.7	41.3	4.6	47.5	8.6
6年目以降	218	7.3	33.9	63.8	34.9	5.5	54.1	4.6

●エントリーシートでの工夫

エントリーシートや面接において、自分をよりよく見せる工夫（事実より大げさに書く、本音とは違うことを言う）の有無について聞いたところ（図2-1-15）、6割以上の方が「かなりした」あるいは「少しはした」と回答している。この傾向は、男性より女性に強く、また、近年になるほど強いものとなっている。ここにも、就職活動の高度化、大学生の武装化が表れている。

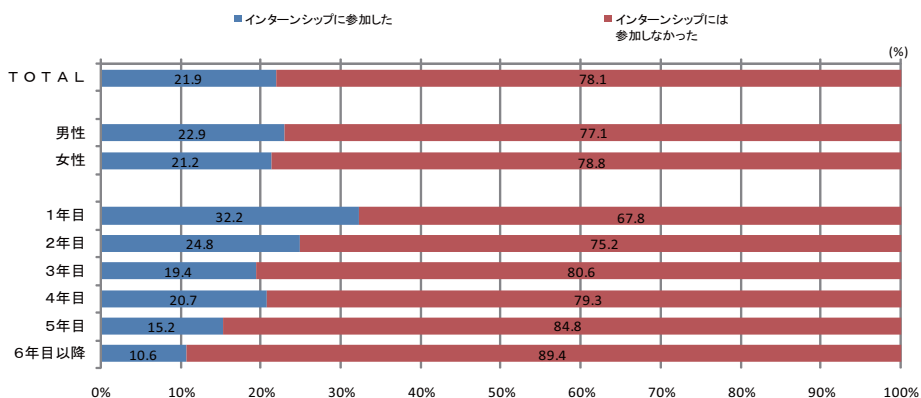
2-1-15 エントリーシートでの工夫



●インターンシップ経験

「インターンシップ経験」を問うたところ（図2-1-16）、2割強の人が何らかのインターンシップを経験したと回答している。インターンシップ経験率は近年になるほど上昇している。

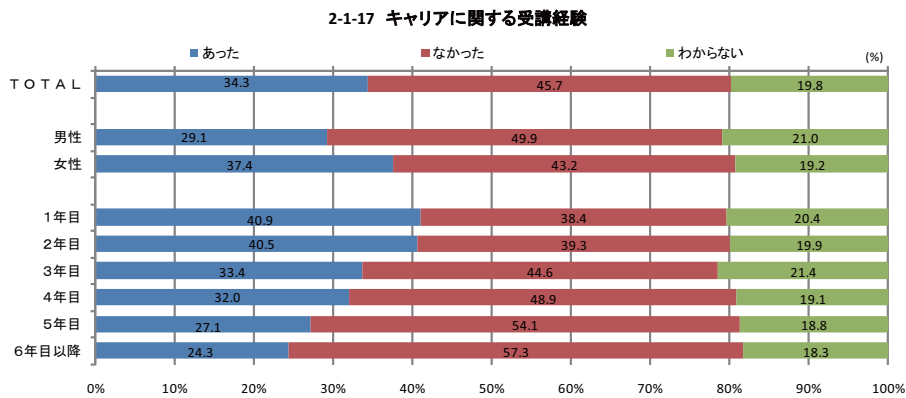
2-1-16 インターンシップ経験



●キャリアに関する受講経験

大学内でのキャリア教育施策などの「キャリアに関する受講経験」を聞くと（図2-1-17）、34.3%の人があったと回答している。この数値も近年になるほど上昇している。

大学生の就業力支援に向けての取り組みは、強化されている。今後設置基準にも組み込まれることから、この趨勢は続くものと考えられる。

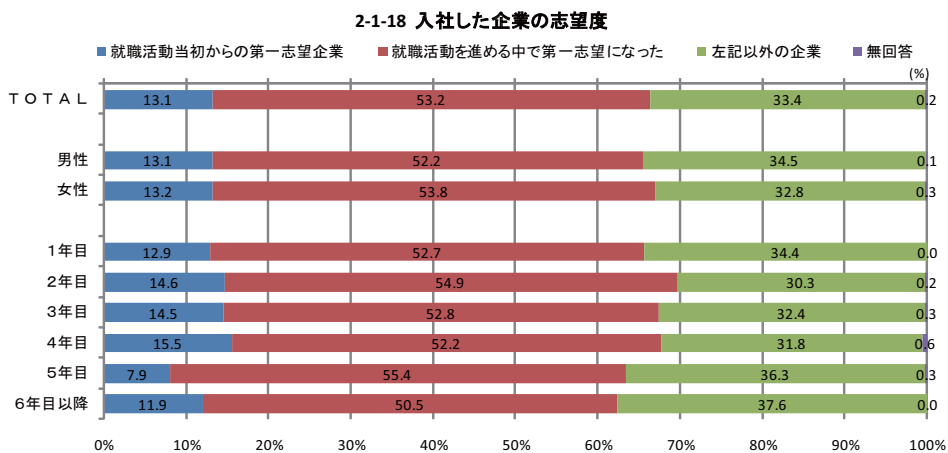


●活動成果・評価

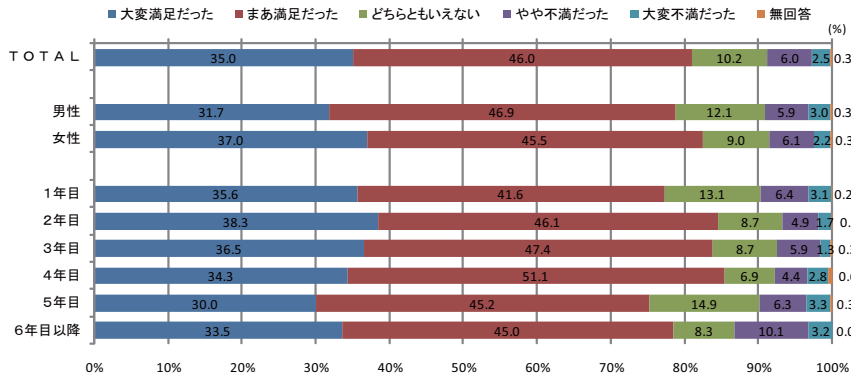
入社した企業の志望度をきいたところ（図2-1-18）、活動当初からの第一志望企業という回答は13.1%、就職活動を進める中で第一志望になったという回答は53.2%と、第一志望に入社したという回答は全体の三分の二を占めている。これらの数値は入社6年目以降から入社2年目にかけて上昇していたが、入社1年目では下降している。近年の景気動向を受けて、大手企業が採用数を縮小していることが影響していると思われる。

入社した企業の満足度をきいたところ（図2-1-19）、35.0%が「大変満足だった」、46.0%が「まあ満足だった」と回答し、満足であるという回答者は8割を超えている。この傾向は男性より女性において顕著であり、また、卒業後2年目から4年目の人たちの満足度がやや高い傾向にある。

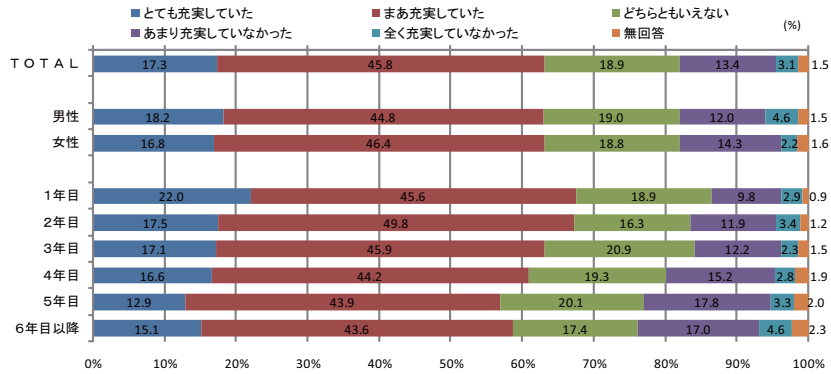
就職活動が充実していたかどうかを聞いたところ（図2-1-20）、17.3%が「とても充実していた」、45.8%が「まあ充実していた」と回答し、充実していたとする回答数は6割を超えている。この数値は、近年にかけて高まるという傾向を見せている。



2-1-19 入社した企業の満足度



2-1-20 就職活動の充実度



## 2-2 就職活動への取り組み姿勢への影響要因

自己分析あるいは企業探し、エントリーシート作成、面接対策といった就職活動への取り組み姿勢の度合いの合計得点は、大学時代の行動、経験、あるいはそれによって形成された能力・態度などどのような関係があるのだろうか。重回帰分析を試みたところ(被説明変数として「大学生活での優先順位」「大学生活での考え方や価値観の変化」「基礎力」「ローカスオブコントロール」「信頼感」「キャリア観」「インターンシップ経験」「キャリアに関する受講経験」を投入)、有意なものとして、図2-2-1の項目が抽出された。大学生生活の優先順位／就職活動 との関係が強いことは自明であるが、その他の関係についてはあまり強い関連は見られていない。

就職活動とその評価、および大学生生活評価の関係を見るため、相関分析を行った(図2-2-2)。就職活動の充実度と、

2-2-1 就職活動への取り組み姿勢への影響要因

	標準化係数	有意確率
優先順位 /ゼミ	0.096	***
優先順位 /大学行事	0.108	*
優先順位 /就職活動	0.356	***
変化 /ゼミ	-0.078	*
変化 /読書	-0.082	*
変化 /就職活動	0.134	***
対自己基礎力	0.109	***
フィット志向	0.062	*
ラブ志向	0.075	***
ステイタス志向	0.068	***
キャリアに関する受講経験	0.082	***
調整済み R2 乗	0.365	

\*(有意水準5%) \*\* (有意水準1%) \*\*\* (有意水準0.1%)

各々の就職活動項目の多くには高い相関関係が見られる。企業探しへの取り組み(相関係数0.393)、エントリーシート作成への取り組み(0.378)、就職活動を量的にも質的にも熱心に取り組むほど、充実度が高まるという傾向が顕著である。また、就職活動は、早くから始めるほど充実度が高く、遅くまで続けているほど充実度が下がるという傾向にある。

入社した企業への満足度と、各就職活動項目の相関は、就職活動の充実度との関係ほど密接ではない。企業探しへの取り組み、エントリーシートへの取り組みなどの質的な側面、あるいは就職活動を早く終えるか、そういった面がやや相関するにとどまる。

大学生生活満足度と就職活動項目の間には、強い相関関係は全く見られない。就職の結果に関する満足(入社した企業の満足度)と就職活動の実態とには、あまり強い関連がなく、更に大学生生活の優先順位あるいは考え方や価値観の変化と同様に、大学生生活満足度と就職活動の間にもほぼ関連がないということが見てとれる。

これは、上位大学における就職活動が質的に高度化していることをうかがわせる結果である。先行した調査(「20代キャリア/キャンパス調査」ワークス研究所、2009)においては、活動量と入社企業満足度の間には、明確な関係が見て取れた。中下位校における就職活動支援は、企業との接触機会を増やすことで一定の成果が上がる。しかし、上位行学生には、そのような支援策は通用しない。この層の就職活動の悩ましさが改めて浮き彫りになっている。

2-2-2 就職活動への評価

	就職活動の 充実度	入社した企業の 満足度	大学生生活満足度
就職活動開始時期	-0.207 ***	-0.061 **	
就職活動終了時期	-0.266 ***	-0.200 ***	-0.053 *
セミナーや説明会への参加数	0.229 ***		
OB訪問経験	0.239 ***	0.113 ***	0.060 **
応募企業数	0.133 ***		
面接参加企業数	0.201 ***		
内定獲得企業数	0.267 ***	0.131 ***	0.026
自己分析への取り組み度合い	0.348 ***	0.151 ***	0.059 **
企業探しへの取り組み度合い	0.393 ***	0.180 ***	
エントリーシート作成への取り組み度合い	0.378 ***	0.167 ***	0.073 ***
面接対策への取り組み度合い	0.354 ***	0.156 ***	0.082 ***
インターンシップ経験	0.160 ***	0.057 **	
キャリアに関する受講経験	0.116 ***		
就職活動の充実度		0.497 ***	0.136 ***
入社した企業の満足度	0.497 ***		0.115 ***
大学生生活満足度	0.136 ***	0.115 ***	

\*(有意水準5%) \*\* (有意水準1%) \*\*\* (有意水準0.1%)

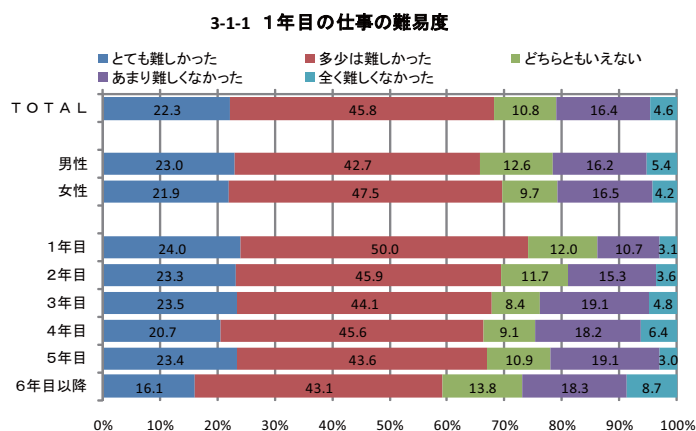


# Part 3 初期キャリアの適応の実態

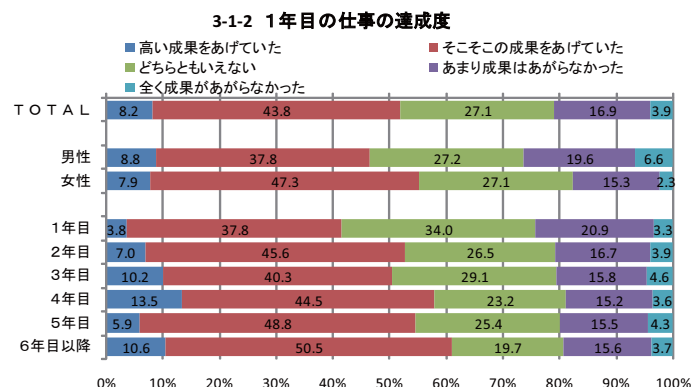
## 3-1 キャリアスタート時の状況

### ●仕事の難易度とその達成状況

大学を卒業し初めて社会に出た社会人1年目の状況についていくつかの観点で訊ねた。1年目の仕事の難易度については(図3-1-1)、「とても難しかった」22.3% 「多少は難しかった」45.8%と両者合計で7割近くを占め、初めて携わる仕事の難易度が高いものであると認識している傾向が強く窺える。また、この傾向は近年になるほど強化されており、卒業1年目では74.0%の人が「難しかった」と答えている。



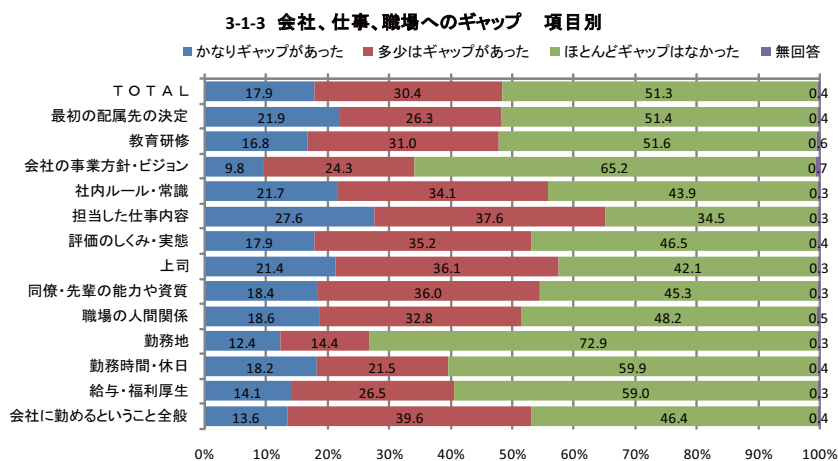
1年目の仕事の達成度についても同様に訊ねたところ(図3-1-2)、「高い成果をあげていた」と答える数値は8.2%にとどまっているが、43.8%の人が「そこそこの成果をあげていた」と一定以上の責任が果たせたという実感を持っている。しかし、両者の数字は合わせても5割をやや超える程度であり、半数近くの人が自身の仕事の出来映えについてあまり手ごたえを得ていなかったことが見て取れる。なお、この傾向は近年になるにつれて顕著であり、卒業後1年目では「高い成果をあげていた」が3.8%、「そこそこの成果をあげていた」が37.8%、と両者の合計が4割強にまで落ち込んでいる。



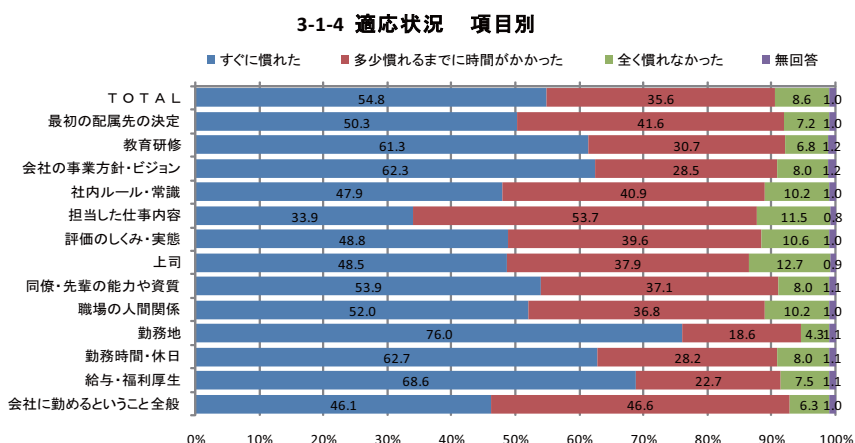
### ●リアリティショックと順応状況

会社・仕事・職場へのギャップ(リアリティショック)の実態についても訊ねた(図3-1-3)。最も大きなギャップがあったと回答しているのは「担当した仕事内容(かなりギャップがあった)27.6%、「多少はギャップがあった」37.6%であり、約3分の2の人が初期の仕事内容に関するギャップを感じている。ついで、「上司」(同

21.4%、36.1%)「社内ルール・常識」(同21.7%、34.1%)となっており、身近な職場での実態に対するギャップの大きさが浮かび上がっている。一方で、「勤務地」「会社の事業方針・ビジョン」といった明示的な項目に対するギャップは低くなっており、入社以前に伝わる情報と伝わらない情報の差が明確に浮かび上がっている。



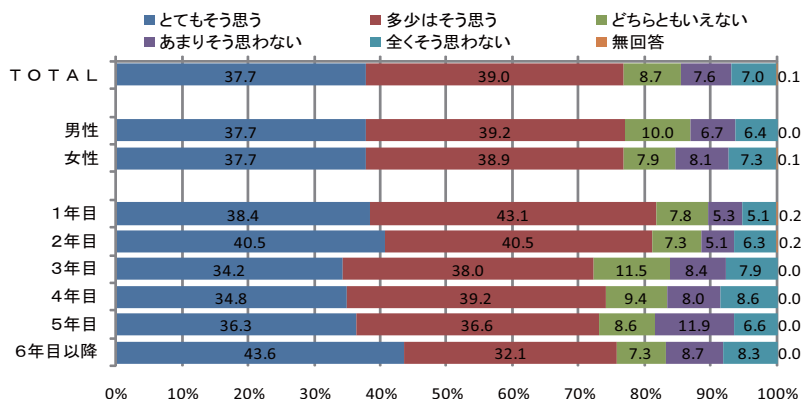
ギャップについて訊ねた項目とまったく同じ項目について、それらへの適応状況を尋ねた(図3-1-4)。慣れるまでに時間がかかったものの筆頭は、ギャップ同様に「担当した仕事内容」(「まったく慣れなかった」11.5%、「多少慣れるまでに時間がかかった」53.7%)であり、約3分の2の人が仕事へのギャップだけではなく、慣れに関しても時間がかかったと回答している。以下、「会社に勤めるということ全般」(6.3%、46.6%)「社内ルール・常識」(10.2%、40.9%)「上司」(12.7%、37.9%)「評価のしくみ・実態」(10.6%、39.6%)と続く。「全く慣れなかった」のスコアに着目すると、最も高いのが「上司」(12.7%)であり、次いで「担当した仕事内容」(11.5%)「評価のしくみ・実態」(10.6%)「職場の人間関係」(10.2%)「社内ルール・常識」(10.2%)となっている。特に人的な側面に対して適応に苦心しているという様子が窺える。



### ●信頼できる人物との出会い

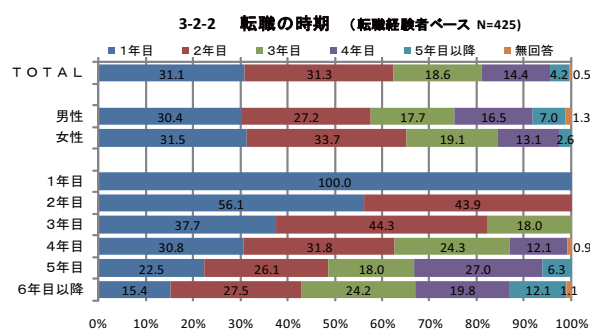
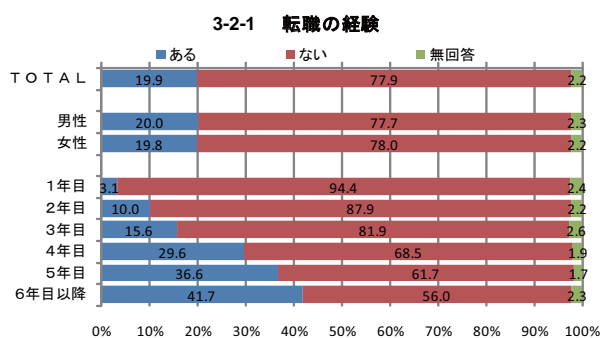
1年目での信頼できる上司・先輩との出会いについても尋ねた(図3-1-5)。「とてもそう思う」(37.7%)「多少はそう思う」(39.0%)を合わせて4分の3強の人が良質な出会いがあったと回答している。人間関係に苦心しているという側面はありつつも、特定の上司・先輩という心の支えの存在とは巡り合っていると考えられる。

### 3-1-5 1年目での信頼できる上司・先輩との出会い

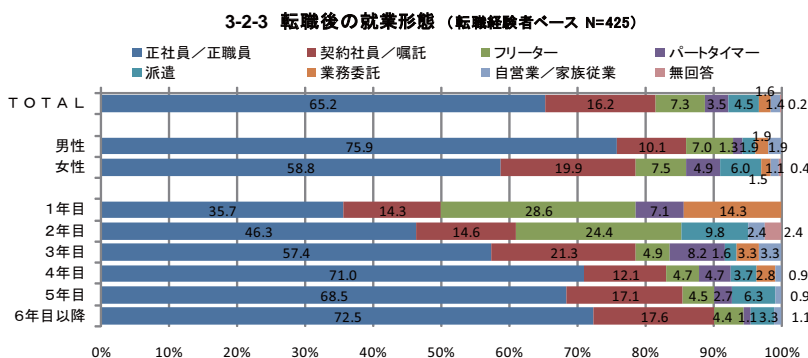


## 3-2 転職実態と転職意向

転職経験について訊ねたところ（図3-2-1）、19.9%が「ある」と回答した。男女の内訳は変わらないが、卒業年次が進むにつれ経験率は上昇し、6年目以降になるとその数値は4割を超える。転職の時期（図3-2-2）は1年目（31.1%）、2年目（31.3%）が多くを占め、会社・職業とのミスマッチ、仕事・職場との不適応などがこれらを引き起こしているのではないかと想定される。



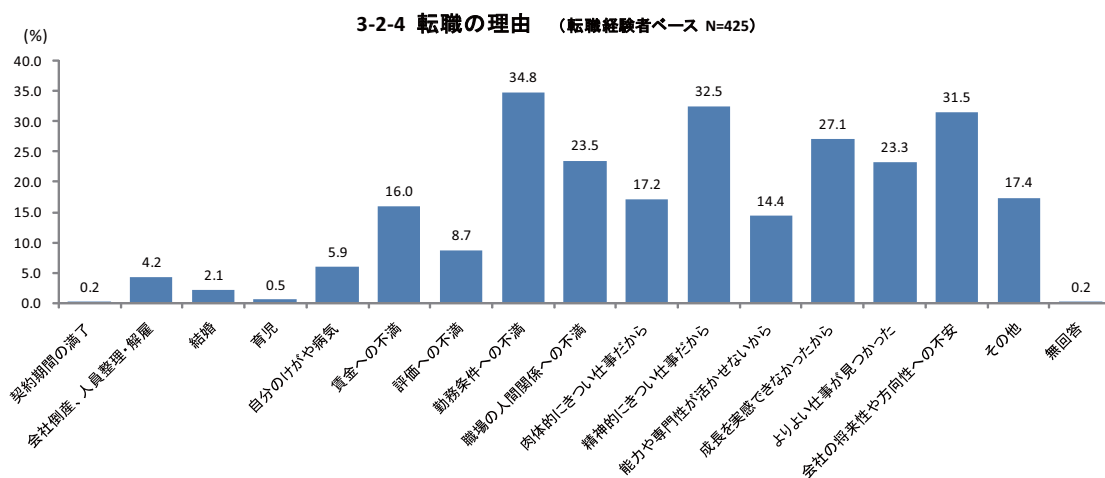
転職後の就業形態（図3-2-3）は正社員の比率が65.2%と、約3分の2となっており、残りの3分の1は契約社員などの非正規雇用となっている。その傾向は男性より女性のほうが、また近年になるほど高くなっている。この



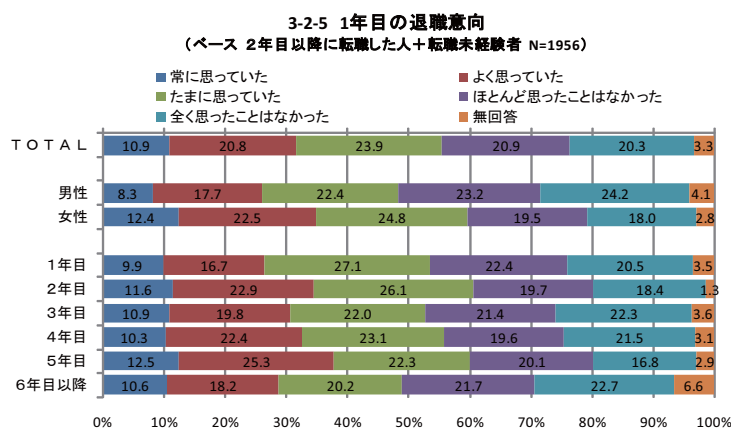


要因は社会人となってから一定年数を経ない転職が労働市場から評価されないという側面と、リーマンショック以降の転職市場の冷え込みの両側面からくるものと考えられる。

転職の理由(図3-2-4)の上位は「勤務条件への不満(34.8%)」「精神的にきつい仕事だから(32.5%)」「会社の将来性や方向性への不安(31.5%)」となっており、新卒で入社した企業や担当した仕事の実態に対する不満や違和感とその主たる動機となっている。次いで、「成長を実感できなかったから(27.1%)」が続くが、この項目は21世紀初頭の調査(『仕事にまつわる意識』アンケート)/リクルートワークス研究所(Works編集部/2004年)においては転職理由の筆頭となっていた。転職理由は、リーマンショックを境に、ポジティブなものから不安や不満を中心としたネガティブなものへとシフトしている。



1年目に退職しなかった人に、1年目の退職意向を訊いた(図3-2-5)。「常に思っていた(10.9%)」「よく思っていた(20.8%)」「たまに思っていた(23.9%)」と、過半数の人が初年時に入社組織に関する違和感や不満を抱いていたことが窺える。またこの傾向は、男性より女性により顕著である。



### 3-3 「大学生生活」が「リアリティショック」に及ぼす影響

大学生生活における優先順位や価値観の変化、形成された能力や態度、就職活動の実態などが入社後のギャップや適応状況にどのような影響を及ぼしているのかを重回帰分析を用いて探索した。被説明変数に「会社・仕事・職場でのギャップ

プ（合計得点）、説明変数として「大学生活での優先順位」「大学生活での考え方や価値観の変化」「基礎力」「大学生生活の忙しさ」「ローカスオブコントロール」「信頼感」「キャリア観」「インターンシップ経験」「キャリアに関する受講経験」「就職活動の開始・終了時期」「就職活動社数」「就職活動への取り組み度合い」「入社企業志望度」「就職活動充実度」「大学時代の友人との交流」「大学生生活満足度」を投入したところ、図3-3-1に掲示したものが有意であった。有意水準0.1%未満を示しているのが「入社した企業の満足度」と「フィット志向」である。入社した企業の満足度が高ければ高いほど、ギャップは少ないが、自分にあった企業を探したいという志向が高いほどギャップが大きいということが浮かび上がる。それ以外にも有意な項目はあるが、この回帰結果の調整済みR2乗値が0.11にとどまっており、適合度の極めて低いモデルとなっているので上記以外の項目から何かを特定することは不適切であろう。

3-3-1 「会社、仕事、職場でのギャップへの影響要因」

	標準化係数 $\beta$	有意確率
優先順位 / 就職活動	0.075 *	
変化 / ゼミ	-0.081 *	
変化 / 大学外学び	0.113 *	
信頼感 / 不信	0.073 *	
フィット志向	0.093 ***	
リクエスト志向	0.069 *	
キャリアに関する受講経験	0.068 *	
セミナーや説明会への参加数	0.079 *	
入社した企業の満足度	-0.180 ***	
調整済み R2 乗	0.110	

\*(有意水準5%) \*\*\*(有意水準0.1%)

同様に被説明変数を「適応状況の合計得点」に換えて施行したところ、図3-3-2に掲示する説明変数が有意であった。ここでも優位確率が0.1%未満の項目として「入社した企業の満足度」が挙がっており、入社した企業への満足度が高いほど、その企業に適応しているという傾向が見てとれる。しかし、この分析結果も調整済みR2乗値が0.108と極めて小さいため、解釈には留意が必要である。また、この結果は社会に出てからの適応状況と大学生活の実態や評価との間には明確な関係がないということを示唆している。

3-3-2 「適応状況の影響要因」

	標準化係数 $\beta$	有意確率
優先順位 / 読書	-0.096 *	
変化 / 講義外学び	0.086 *	
信頼感 / 不信	-0.074 *	
キャリアに関する受講経験	-0.065 *	
入社した企業の満足度	0.151 ***	
就職活動の充実度	0.085 *	
調整済み R2 乗	0.108	

\*(有意水準5%) \*\*\*(有意水準0.1%)

### 3-4 「転職」「転職意向」の規定・影響要因

転職経験に注目し、転職する要因を規定する分析を二項ロジスティック回帰によって行った。まず、被説明変数として転職経験、説明変数として「大学生活での優先順位」「大学生活での考え方や価値観の変化」「基礎力」「大学生生活の忙しさ」「ローカスオブコントロール」「信頼感」「キャリア観」「インターンシップ経験」「キャリアに関する受講経験」「就職活動の開始・終了時期」「就職活動社数」「就職活動への取り組み度合い」「入社企業志望度」「就職活動充実度」「大学時代の友人との交流」「大学生生活満足度」を投入して分析した結果が、図3-4-1の分析①である。有意なものの多くは、就職活動に関連したものであり、入社企業の満足度が低いほど、あるいは就職活動の充実度が低いほど、OB

3-4-1 転職経験の規定要因

	分析①		分析②	
	B	有意	B	有意
優先順位 / 友人	0.283 *		0.333 *	
OB訪問経験	-0.351 *			
ゴール志向	0.399 **		0.394 *	
リクエスト志向	-0.323 *		-0.411 **	
入社企業満足度	-0.326 ***		-0.230 *	
就職活動の充実度	-0.316 ***		-0.266 *	
ギャップ / 勤務時間・休日			0.285 *	
適応 / 教育研修			0.358 *	
適応 / 社内ルール・常識			-0.496 *	
適応 / 会社に勤めるとのこと全般			0.421 *	
1年目の仕事の達成度			0.245 *	
1年目の信頼できる先輩上司の有無			-0.365 ***	
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.158		0.287	

\*(有意水準5%) \*\*\*(有意水準1%) \*\*\*\*(有意水準0.1%)

訪問の経験がないほうが、リクエスト志向が低いほど、そしてゴール志向が高いほど転職する傾向が強くなっている。志望企業への要望が希薄で、働く先輩との出会いがないまま就職することが、転職を誘発することは十分に想定される結果であり、就職支援のポイントを改めて浮かび上がらせている。ゴール志向が高いほど転職傾向が強いこともまた十分に想定される結果である。現状の採用手法、就職ガイダンスやキャリア教育の方向性が転職傾向を加速している可能性があることも示唆している。また、大学時代の友人との交流の優先順位が高いほうが転職する傾向が高いという解析結果も抽出された。卒業後に友人と交わす会話が転職を誘発するというのは、人材バンクのキャリアアドバイザーもよく指摘する傾向である。

分析①はモデルの当てはまりが決して高いとは言えないため、新たに「入社後のギャップ」「入社後の適応状況」「1年目の状況」という説明変数を加えて分析をした結果が分析②である。分析①で有意であったものはOB訪問経験以外は有意であり、更にギャップや適応状況、1年目の状況に有意なものが見られた。強く有意なものとして、1年目に信頼できる先輩・上司に出会えないほど、転職するという傾向が強いということが抽出された。

1年目に転職しなかった人を対象に、1年目の退職意向への影響要因を探索する重回帰分析を行った。結果を図3-4-2に示す。キャリア観の多くが転職意向に密接なつながりがある。エスケープ志向、ワンダー志向、あるいはラブ志向が高いほど、そしてグロー志向が低いほど、転職意向が高まるという傾向が見てとれる。初年時のギャップ・適応状況も密接なつながりがあることがわかる。双方に共通しているのは担当した仕事内容であり、担当した仕事内容へのギャップが大きいほど、あるいは担当した仕事内容に慣れるまでの時間がかかればかかるほど、転職意向は高まる傾向にある。また、初年時の仕事の難易度が高いほど、あるいは仕事の達成度が高いほど、転職意向は高まる。また、1年目に信頼できる先輩・上司に出会っていないと、転職意向が高まるという傾向はここでも見てとれる。

3-4-2 転職意向の影響要因

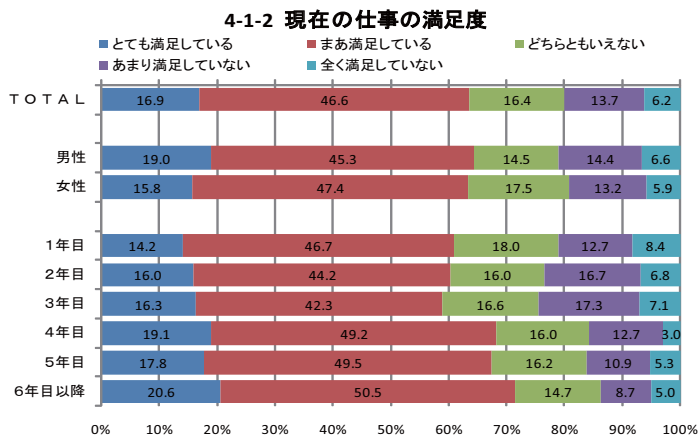
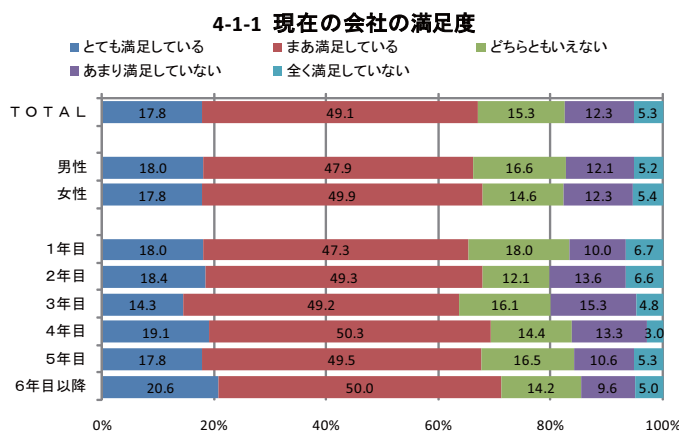
	標準化係 数ベータ	有意
グロー志向	-0.089 *	
エスケープ志向	0.102 ***	
ワンダー志向	0.109 ***	
ラブ志向	0.072 *	
入社した企業の満足度	-0.160 ***	
ギャップ / 担当した仕事内容	0.067 *	
ギャップ / 勤務時間・休日	0.078 *	
ギャップ / 会社に勤めるとのこと全般	0.090 **	
適応 / 社内ルール・常識	-0.078 *	
適応 / 担当した仕事内容	-0.078 *	
適応 / 上司	-0.075 *	
1年目の仕事の難易度	0.094 ***	
1年目の仕事の達成度	0.067 *	
1年目の信頼できる先輩上司の有無	-0.152 ***	
調整済み R <sup>2</sup> 乗	0.333	

\*(有意水準5%) \*\*\*(有意水準1%) \*\*\*\*(有意水準0.1%)

# Part 4 現状評価と自己アイデンティティの確立

## 4-1 現状評価

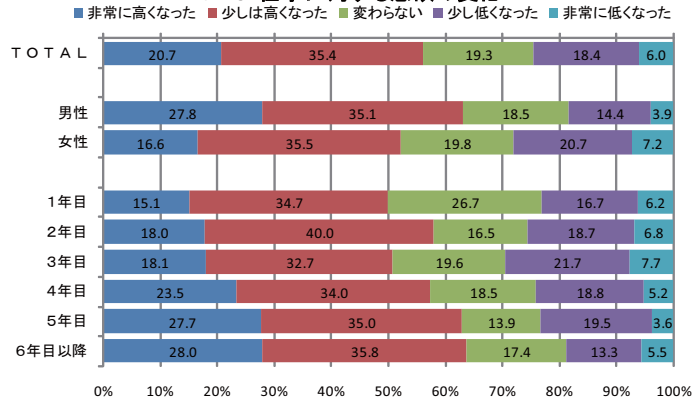
現在の勤務先への満足度を訊ねたところ（図4-1-1）、「とても満足している（17.8%）」「まあ満足している（49.1%）」と合わせて7割弱の人が勤務先に対して満足であると回答している。同様に現在の仕事に関する満足度も聞いているが（図4-1-2）、「とても満足している（16.9%）」「まあ満足している（46.6%）」が合わせて8割以上の人々が成長を実感している。この傾向は男性に比べ女性で顕著である。また、卒業後の経過年数が増えるほど、この傾向は顕著になっている。



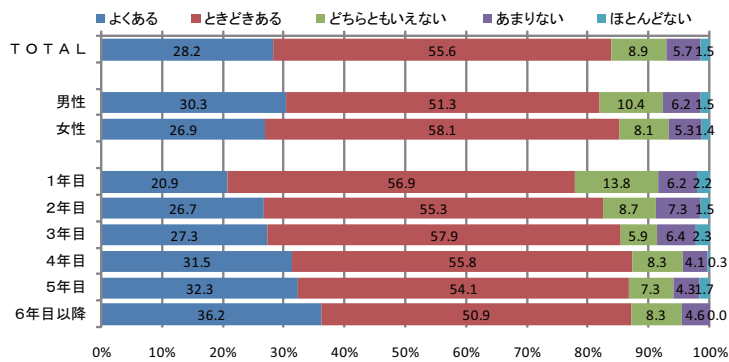
新卒で入社した時点と現在とでの仕事に対する意欲の変化を聞いたところ（図4-1-3）、「非常に高くなった（20.7%）」「少しは高くなった（35.4%）」と、過半数が意欲が向上したと答えている。この傾向は女性に比べ男性で顕著である。また、卒業後の経過年数が増えるほど、この傾向は顕著になっている。

現在の仕事に携わる中でどの程度成長を実感しているかについても聞いた（図4-1-4）。成長実感が「よくある（28.2%）」「ときどきある（55.6%）」合わせて8割以上の人々が成長を実感している。この傾向は男性に比べ女性で若干強く、また、卒業後年次が上昇するにつれて向上するが、4年目以降はその水準は変わらない。

### 4-1-3 仕事に対する意欲の変化



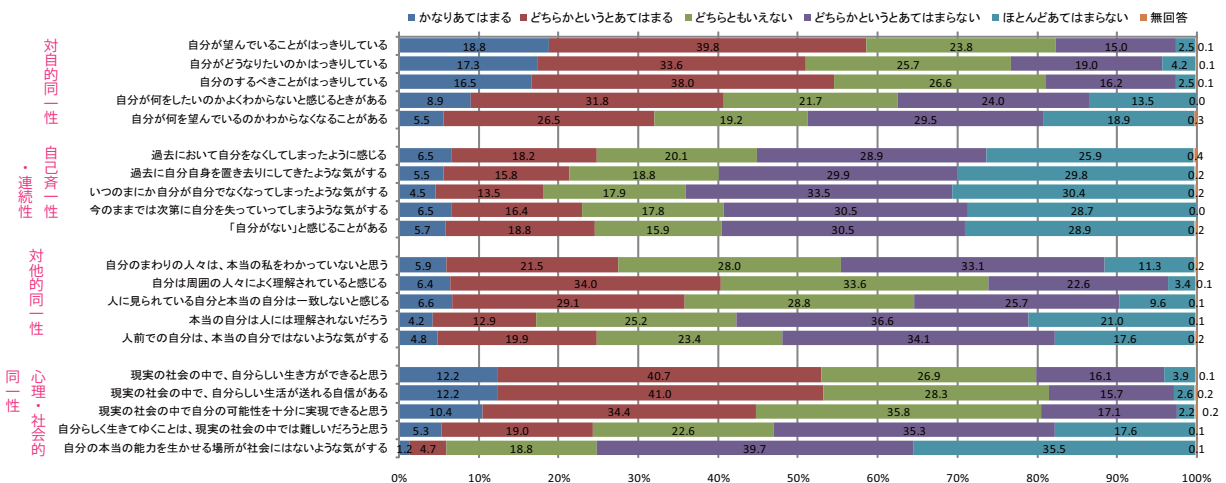
### 4-1-4 成長実感



## 4-2 自我アイデンティティの確立

自我アイデンティティは、「対自的同一性」「自己斉一性・連続性」「対他的同一性」「心理・社会的同一性」の4つの次元から訊ねている。それらの次元・尺度を構成する設問の回答結果を図4-2に示す。「対自的同一性」は「かなり

### 4-2 自我アイデンティティの確立



あてはまる」「どちらかというあてはまる」と回答する傾向が強く（リバーズ設問については「どちらかというあてはまらない」「ほとんどあてはまらない」）、同様の傾向は「心理・社会的同一性」においても見られる。「自己斉一性・連続性」は全てがリバーズ設問であることも影響して「かなりあてはまる」「どちらかというあてはまる」という回答は全体的に少なくなっている。「対他的同一性」に関してはどちらへの偏りが強いというような傾向はみられない。

### 4-3 現状評価の影響要因

現状評価に影響する要因を特定するために重回帰分析を行った（図4-3）。説明変数として現在の会社満足度、現在の仕事満足度を設定し、被説明変数として「大学生生活での優先順位」「大学生生活での考え方や価値観の変化」「基礎力」

4-3 現状評価の影響要因

	現在の会社満足度		現在の仕事満足度	
	標準化係数 ベータ	有意	標準化係数 ベータ	有意
優先順位 / 大学行事			0.076 *	
優先順位 / 読書	0.061 *		-0.076 *	
優先順位 / 友人	-0.065 **			
変化 / 講義			0.045 *	
変化 / 大学行事			-0.088 *	
Locus of control			-0.052 *	
自己分析への取り組み度合い	-0.051 *			
入社した企業の満足度	0.056 *		0.044 *	
大学生生活満足度	0.040 *			
適応 / 評価のしきみ・実態			-0.054 *	
仕事に対する意欲の変化	0.141 ***		0.164 ***	
仕事を通じた自分の成長			0.096 ***	
自己斉一性・連続性			0.099 ***	
対他的同一性	0.060 *			
現在の仕事満足度 / 会社満足度	0.604 ***		0.562 ***	
調整済み R2 乗	0.608		0.661	

\*(有意水準5%) \*\* (有意水準1%) \*\*\* (有意水準0.1%)

「大学生生活の忙しさ」「ローカスオブコントロール」「信頼感」「キャリア観」「インターンシップ経験」「キャリアに関する受講経験」「就職活動の開始・終了時期」「就職活動社数」「就職活動への取り組み度合い」「入社企業志望度」「就職活動充実度」「大学時代の友人との交流」「大学生生活満足度」「入社後のギャップ」「入社後の適応状況」「1年目の状況」「仕事に対する意欲の変化」「仕事を通じた成長」「自我アイデンティティ」「現在の仕事（会社）満足度」を投入して分析を行った。

会社満足度に影響を及ぼす要因は現在の仕事満足度が圧倒的に高い係数を示しており、次いで仕事に対する意欲の変化も高い係数・有意確率を示している。その他もいくつか有意な変数が存在するが係数は小さいものとなっている。

現在の仕事満足度を規定する要因は、現在の会社満足度の係数がきわめて高く、次いで仕事に対する意欲の変化、仕事を通じた自分の成長、自己斉一性・連続性となっている。会社満足度に比べ、仕事満足度において自我アイデンティティの一構成要素である自己斉一性・連続性が有意に認められるのは特徴的である。

### 4-4 自我アイデンティティの影響要因

自我アイデンティティの形成に影響を及ぼす要因を特定するために重回帰分析を行った（図4-4）。被説明変数として「対自的同一性」「自己斉一性・連続性」「対他的同一性」「心理・社会的同一性」、説明変数として「大学生生活での優先順位」「大学生生活での考え方や価値観の変化」「基礎力」「大学生生活の忙しさ」「ローカスオブコントロール」「信頼感」「キャリア観」「インターンシップ経験」「キャリアに関する受講経験」「就職活動の開始・終了時期」「就職活動社数」「就職活動への取り組み度合い」「入社企業志望度」「就職活動充実度」「大学時代の友人との交流」「大学生生活満足度」「入社後のギャップ」「入社後の適応状況」「1年目の状況」「仕事に対する意欲の変化」「仕事を通じた成長」「現在の仕事・



会社満足度」を投入して分析を行った。

4-4 自我アイデンティティの影響要因

	対自的同一性		対他的同一性		自己斉一性・連続性		心理社会的同一性	
	標準化係 数ベータ	有意	標準化係 数ベータ	有意	標準化係 数ベータ	有意	標準化係 数ベータ	有意
優先順位 / 講義							-0.059	*
優先順位 / 友人					0.081	**		
優先順位 / 就職活動					0.068	*		
変化 / 就職活動			-0.077	*				
大学生生活の忙しさ	0.065	*						
Locus of control					0.137	***	0.111	***
信頼感 / 自己への信頼	0.167	***	0.122	***	0.057	*	0.163	***
信頼感 / 他者への信頼	-0.081	**			0.080	***		
信頼感 / 不信	-0.120	***	-0.191	***	-0.210	***	-0.137	***
グロー志向			0.089	**			0.092	***
エスケープ志向			-0.055	*	-0.072	**	-0.081	***
ゴール志向	0.166	***	-0.131	***	-0.098	***		
ラブ志向	-0.079	**			0.056	*		
ステイタス志向	0.059	*						
キャリアに関する受講経験			-0.047	*				
応募企業数					-0.079	*		
面接参加企業数					0.116	***		
自己分析への取り組み度合い							0.052	*
就職活動の充実度	0.086	*						
適応期間 / 勤務地					-0.062	*		
適応期間 / 勤務時間・休日			0.070	*				
適応期間 / 会社に勤めるということ全般					0.089	**		
1年目の仕事の難易度			-0.058	*				
仕事に対する意欲の変化	0.206	***	0.178	***	0.069	*	0.123	***
仕事を通じた自分の成長	0.059	*					0.071	**
現在の会社満足度					0.125	***	0.111	***
現在の仕事満足度	0.111	**	0.182	***			0.143	***
調整済み R2 乗	0.260		0.388		0.360		0.415	

\*(有意水準5%) \*\*\*(有意水準1%) \*\*\*\*(有意水準0.1%)

「対自的同一性」に影響を及ぼす要因は係数の高い順に仕事に対する意欲の変化、信頼感 / 自己への信頼、ゴール志向、信頼感 / 不信（マイナス相関）、現在の仕事満足度である。

「対他的同一性」に影響を及ぼす要因は信頼感 / 不信（マイナス相関）、現在の仕事満足度、仕事に対する意欲の変化、ゴール志向（マイナス相関）、信頼感 / 自己への信頼である。

「自己斉一性・連続性」に影響を及ぼす要因は、信頼感 / 不信（マイナス相関）、ローカスオブコントロール、現在の会社満足度、面接参加企業数、ゴール志向（マイナス相関）となっている。

「心理・社会的同一性」に影響を及ぼす要因は、信頼感 / 自己への信頼、現在の仕事満足度、信頼感 / 不信（マイナス相関）、仕事に対する意欲の変化、ローカスオブコントロール、現在の会社満足度となっている。

4つの次元・尺度のうち、3つ以上に影響を及ぼす（有意である）ものは、信頼感 / 自己への信頼、信頼感 / 不信、エスケープ志向、ゴール志向、仕事に対する意欲の変化、現在の仕事満足度、となっているが、ゴール志向だけがプラス相関とマイナス相関が混在する結果となっている。

大学時代に形成・獲得された説明変数の中で、現在のアイデンティティ形成状況に影響を及ぼしている主な項目は、信頼感 / 自己への信頼、信頼感 / 不信、エスケープ志向、ゴール志向である。大学時代に何をしたか、どのような能力が培われたかではなく、どのような職業的態度が形成されているかが影響を及ぼしていることが確認された。この傾向は、転職実態・転職意向においても観測されたものである。

ゴール志向は、自我アイデンティティの一部にはプラスに働きながら、仕事満足度の影響要因である「自己斉一性・連続性」にはマイナスの影響を与える。Part 3で確認したように転職経験への影響があり、Part 1で確認したように信頼感／不信との相関もある。「やりたいこと＝ゴールを見つけよう」「あなたのやりたいこと＝ゴールは何ですか」といった頻出フレーズに見られるように就職活動、就職支援において、ゴール志向は強化されることが類推される。今後の就職活動、就職支援・就業力支援を考える上で、極めて重要な示唆をはらんだ結果だといえるだろう。







# 20代のキャリアと 大学時代の経験に関するアンケート

- このアンケートは、██████大学を2004～2009年に卒業された方にお送りしています。
- ご協力いただいた方全員に、謝礼といたしまして1000円相当のQUOカードを差し上げます。

皆様からの回答ひとつひとつが、  
██████大学を、  
より質の高い教育機関とするための原動力となります。  
ご協力をお願いします。

## 【ご記入にあたっての注意事項】

- このアンケートにご記入いただいた内容はすべて統計的に処理され、回答が他に漏れることはございませんので、ご安心いただきありのままにご記入ください。
- 筆記用具は、黒または青のものをご使用ください。鉛筆・ペン、どちらでも構いません。
- アンケートは、用意されている回答の中であてはまる番号をお答えいただく質問がほとんどです。該当する選択肢の番号に、直接○をつけてお答えください。

## 【調査主体と委託先について】

このアンケートは、██████大学が実施主体となり、設計・分析を  
(株)リクルートワークス研究所に委託しています。

リクルートワークス研究所は働く人と組織に関する研究機関です。

詳細はWEBサイトをご覧ください。[\(http://www.works-i.com/\)](http://www.works-i.com/)

勝手ではございますが、集計分析の都合上、

2010年1月15日(金曜日)までに、同封の返信用封筒にて、御投函ください

現在のあなたについてお聞きします。

Q1. あなたの年齢を教えてください。

( 26.1 )歳

※特に指定がない場合、N=3725 (全回答者)  
数値は単位のないものはすべて全体を  
100とした場合の%

Q2. あなたの現在の働き方(就業形態)は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

1. 正社員・正職員 77.4 2. 契約社員・嘱託 4.9 3. フリーター(社会人アルバイト) 2.5 4. パートタイマー 1.2  
5. 派遣 1.6 6. 業務委託(一社専属) 0.3 7. 業務委託(複数社と契約) 0.2 8. その他 2.3 9. 無職 3.0

Q3. XXXXXXXXXX大学卒業後から数えて、現在は就職して何年目にあたりますか。(1つに○)

1. 1年目 18.2 2. 2年目 16.4 3. 3年目 16.0 4. 4年目 15.3 5. 5年目 13.7 6. 6年目以降 9.5

Q4. 現在の勤務先での、あなたの職種は何ですか。(1つに○)

1. 営業職 21.1 2. 事務職 31.7 3. 企画職 4.8 4. サービス職 7.1 5. 販売職 3.2 6. クリエイティブ職 1.5  
7. 専門職 9.3 8. 技術職 1.1 9. ソフトウェア・ネットワーク技術職 2.6 10. その他 7.0 (NA=10.2)

Q5. 現在の勤務先の業種は何ですか。(1つに○)

1. 農林漁業 0.2 2. 鉱業 0.1 3. 建設業 0.9 4. 製造業 10.3 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 0.4  
6. 情報通信業 9.6 7. 運輸業 3.6 8. 卸売・小売業 9.3 9. 金融・保険業 18.6 10. 不動産業 2.0  
11. 飲食店・宿泊業 0.8 12. 医療・福祉 2.5  
13. 教育・学習支援 9.7 14. 郵便 0.1 15. サービス業 14.1 16. 公務 6.6 (NA=11.1)

Q6. 現在の勤務先の従業員数(常用雇用のアルバイト・パートを含む人数)は会社全体でどれくらいですか。(1つに○)

1. 4人以下 1.5 2. 5~9人 1.9 3. 10~19人 2.6 4. 20~29人 2.3 5. 30~49人 4.6 6. 50~99人 5.3  
7. 100~299人 8.8 8. 300~499人 5.3 9. 500~999人 8.0 10. 1000~1999人 8.3 11. 2000~4999人 10.4  
12. 5000人以上 24.5 13. 公務(官公庁) 5.5 (NA=10.9)

Q7. 現在のあなたの年収(2008年4月~2009年3月末までの税込みの実績)をお答えください。(1つに○)

1. 100万円未満 2.0 2. 100万円以上200万円未満 4.9 3. 200万円以上300万円未満 21.1  
4. 300万円以上400万円未満 29.3 5. 400万円以上500万円未満 17.0 6. 500万円以上600万円未満 6.3  
7. 600万円以上700万円未満 2.4 8. 700万円以上800万円未満 0.7 9. 800万円以上900万円未満 0.5  
10. 900万円以上1000万円未満 0.1 11. 1000万円以上 0.6 12. 社会人になって1年目なので答えられない 4.9  
(NA=10.2)

あなたの大学時代についてお聞きします。

Q8. 大学へはどのような手段で入学しましたか。(1つに○)

<一般入試> 1. 一般入試(センター試験含む) 69.6

<推薦入試> 2. 指定校推薦 10.1 3. キリスト教関連推薦 1.0 4. スポーツ推薦 1.3 5. その他推薦(AO、自己推薦など) 0.1

<特別入試> 6. 社会人 3.0 7. 帰国子女 0.9 8. 外国人留学生 0.3 9. 海外就学経験者 0.1

<その他> 10. 編入学・転部試験 2.8 11. 高等部からの内部進学 10.5 (NA=0.3)

Q9. 次の項目の、あなたの大学生活の中での優先順位はどのくらいでしたか。また、これらの活動によって、どの程度自分の考え方や価値観が変わりましたか。(それぞれ1つに○)

		とても優先順位が高かった/とても変わった	やや優先順位が高かった/少しは変わった	どちらともいえない	あまり優先順位は高くなかった/あまり変わらなかった	全く優先順位は高くなかった/全く変わらなかった	この活動の機会はなかった	NA
1. 講義	優先順位	28.4	44.2	13.0	12.1	1.7		0.6
	自分の変化	18.7	46.1	19.9	11.9	2.5		1.0
2. ゼミ	優先順位	32.7	31.9	10.4	10.8	3.2	10.4	0.5
	自分の変化	28.2	31.6	14.2	10.4	4.2		0.9
3. 講義・ゼミの時間以外の学び(※1)	優先順位	19.2	36.2	22.6	15.7	4.4		2.0
	自分の変化	17.8	30.9	28.6	14.8	5.7		2.2
4. 大学のカリキュラム以外の学び(※2)	優先順位	15.4	26.4	20.8	18.7	7.6	10.2	0.8
	自分の変化	16.5	24.4	23.9	15.3	8.4		1.3
5. 大学の行事・イベント(学園祭など)	優先順位	10.9	20.4	18.2	23.0	15.4	11.2	0.8
	自分の変化	10.6	18.9	21.3	20.1	16.6		1.3
6. サークル活動・クラブ活動	優先順位	31.1	18.6	9.0	11.1	9.8	19.7	0.6
	自分の変化	32.7	17.6	9.9	9.4	9.8		1.0
7. アルバイト	優先順位	22.8	37.2	14.8	15.1	5.5	4.2	0.4
	自分の変化	33.8	32.0	14.6	9.8	4.9		0.8
8. 読書	優先順位	13.2	26.2	23.1	23.7	13.2		0.6
	自分の変化	19.2	29.0	24.5	15.4	10.9		1.0
9. 友人との交流	優先順位	53.7	31.9	8.8	4.0	1.2		0.4
	自分の変化	55.6	27.9	9.4	4.0	2.3		0.8
10..就職活動	優先順位	35.7	28.4	15.7	9.7	9.3		1.2
	自分の変化	38.4	28.4	16.1	6.8	8.8		1.4

※1・・・予習・復習、課題・レポート、試験勉強など ※2・・・資格取得のための勉強など

Q10. あなたは、次のような能力について、大学に入学した当時と、大学を卒業した当時において、それぞれの程度持っていたと思いますか。(それぞれ1つに○)

		十分に持っていた	多少は持っていた	どちらともいえない	あまり持っていなかった	全く持っていなかった	NA
A 円満な人間関係を築く力	入学時	12.2	48.3	18.0	19.1	2.3	0.1
	卒業時	29.2	55.2	11.0	3.7	06.	0.3
B 人と協力しながら物事に取り組む力	入学時	12.8	49.3	19.9	15.4	2.3	0.2
	卒業時	28.1	53.9	12.6	4.5	0.5	0.4
C 目標に向かって人や集団をひっぱる力	入学時	5.9	27.0	28.0	30.9	2.3	0.3
	卒業時	14.6	36.9	28.3	15.8	4.0	0.3
D 自分の感情をコントロールする力	入学時	16.4	37.6	22.8	19.9	3.0	0.2
	卒業時	26.4	51.6	15.9	4.9	1.0	0.2
E やる気を維持する力	入学時	16.5	42.1	23.9	15.0	2.4	0.2
	卒業時	23.0	44.7	23.1	7.6	1.4	0.2
F 良い行動を習慣として続けられる力	入学時	11.0	35.9	32.4	18.1	2.4	0.2
	卒業時	16.7	41.9	30.4	9.6	1.1	0.3
G 情報を収集・分析して、課題を発見する力	入学時	5.1	25.3	33.8	30.6	5.1	0.1
	卒業時	21.5	48.9	19.9	8.2	1.3	0.2
H 課題解決のための計画を立案する力	入学時	4.9	25.1	37.6	27.7	4.6	0.1
	卒業時	16.7	46.6	26.4	8.8	1.5	0.1
I 行動を起こし、最後までやりきる力	入学時	14.7	39.3	27.5	15.9	2.4	0.2
	卒業時	31.6	45.3	17.1	4.8	0.9	0.3

Q11. 大学時代にインターンシップに参加した経験がありますか。下記のうち、あてはまるものがあれば○をつけてください(いくつでも)。

1. 大学主催のプログラム(単位がつくもの)に参加した 1.5
2. 大学主催のプログラム(単位がつかないもの)に参加した 1.3
3. 企業主催のプログラム(1週間以上の長期のもの)に参加した 6.6
4. 企業主催のプログラム(1週間未満の短期のもの)に参加した 7.4
5. 専門団体主催のプログラムに参加した 2.1
6. インターンシップには参加しなかった 82.1

(NA=1.3)

Q12.           大学で、「キャリア」に関する講座や授業を受けたことはありましたか。(1つに○)

1. あった 29.5
  2. なかった 50.8
  3. わからない 19.6
- (NA=0.1)

Q13. あなたは、あなたの大学生活をどの程度忙しいと感じていましたか。当時を振り返ってではなく、大学生当時に感じていたこととして、あてはまるものを選んでください。(1つに○)

1. とても忙しい 19.2
2. やや忙しい 39.4
3. どちらともいえない 11.0
4. あまり忙しくない 25.4
5. 全く忙しくない 4.9

(NA=0.1)

Q14. 以下のそれぞれの文章について、あなたの大学に入学した当時の考え方、また大学を卒業した当時の考え方について、あてはまるものを選んでください。(1つに○)

		とても そう 思っ て いた	やや そう 思っ て いた	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 っ て い な か っ た	全 く そ う 思 っ て い な か っ た	NA
1	何でもなりゆきにまかせるのが一番だ	8.1	28.0	15.5	32.0	16.3	0.1
	卒業時	5.4	25.2	21.8	30.3	17.1	0.2
2	いっしょうけんめい話せば、誰にでもわかってもらえる	12.4	36.3	25.3	20.6	5.2	0.2
	卒業時	8.5	28.0	30.3	26.0	7.1	0.2
3	自分の人生は、自分自身で決定している	26.3	33.8	18.6	17.6	3.5	0.2
	卒業時	38.4	35.8	14.4	9.0	2.1	0.3
4	自分の人生は、運命によって決められている	4.6	18.3	25.3	29.4	22.1	0.2
	卒業時	5.6	17.9	25.7	26.4	24.2	0.2
5	自分が幸福になるか不幸になるかは、偶然によって決まる	2.2	10.6	23.7	33.1	30.3	0.1
	卒業時	2.7	8.6	22.3	32.5	33.8	0.1
6	どんなに努力しても、友人の本当の気持ちを理解することはできない	4.0	15.1	23.2	36.1	21.5	0.2
	卒業時	4.8	15.3	23.8	34.6	21.2	0.2
7	努力すれば、どんなことでも自分の力でできる	14.5	33.6	25.4	20.4	5.9	0.2
	卒業時	13.6	31.9	24.9	21.7	7.8	0.2
8	自分の一生を思い通りに生きることができる	8.9	23.8	26.9	26.9	13.3	0.2
	卒業時	7.5	18.7	28.9	29.0	15.8	0.2
9	自分の身におこることは自分の力ではどうすることもできない	2.7	13.9	30.5	38.5	14.3	0.1
	卒業時	3.3	13.2	30.0	37.7	15.7	0.1
10	努力すれば、誰とでも友人になれる	9.0	25.7	25.3	27.5	12.3	0.1
	卒業時	10.4	24.7	25.6	26.2	13.0	0.1

Q15. 以下のそれぞれの文章について、あなたの大学に入学した当時の考え方、また大学を卒業した当時の考え方について、あてはまるものを選んでください。(1つに○)

		かなりあてはまっていた	どちらかというであてはまっていた	どちらともいえな	どちらかというであてはまらなかった	ほとんどあてはまらなかった	NA	
1	どうすべきかわからない問題に遭遇したときに、非常に悩まされることが多い	入学時	17.1	34.1	20.4	22.7	5.4	0.2
	卒業時	13.1	32.0	23.1	25.7	5.8	0.3	
2	時々、日々の習慣を変えることを試みる	入学時	4.8	23.3	25.6	31.9	14.1	0.2
	卒業時	10.3	39.9	19.7	20.7	9.2	0.3	
3	将来、何が流行するか、正確にわかっただらいいと思う	入学時	8.8	16.8	25.0	25.0	23.9	0.6
	卒業時	14.3	20.4	21.0	22.2	21.5	0.2	
4	私は、背伸びした目標を掲げることが多い	入学時	16.2	32.3	19.4	22.6	9.4	0.3
	卒業時	13.4	31.3	21.8	24.0	9.2	0.3	
5	全くなじみのない国に旅行がしたい	入学時	24.2	19.2	15.9	20.4	20.1	0.2
	卒業時	39.3	26.4	10.8	11.1	12.2	0.3	
6	失敗してもあまり悩まないほうだ	入学時	10.9	23.6	16.4	28.5	20.3	0.3
	卒業時	12.9	26.8	17.8	26.5	15.7	0.2	
7	変化のあまりない、淡々とした生活に憧れる	入学時	4.2	11.7	20.5	30.7	32.7	0.2
	卒業時	4.5	12.6	20.3	29.5	32.9	0.2	
8	将来は、より予測がつく世界になることを望む	入学時	3.2	12.2	37.5	27.0	19.8	0.3
	卒業時	4.6	16.1	33.4	25.7	19.9	0.3	
9	以前言ったことと多少矛盾したことを言っていると指摘されたとき、うろたえてしまう	入学時	9.0	31.7	26.6	21.0	11.4	0.3
	卒業時	7.5	26.6	26.0	26.2	13.5	0.2	
10	予測がつかない、きわめて不確かな生活に憧れる	入学時	3.3	11.6	27.9	27.7	29.2	0.3
	卒業時	3.1	9.5	27.0	29.4	30.8	00.3	
11	もし選べるとしたら、100%勝てるゲームを選ぶ	入学時	18.1	22.4	28.3	21.0	10.0	0.2
	卒業時	17.7	21.1	28.1	21.3	11.6	0.2	
12	自分が誰かに反対された場合、その意見に興味を持つことが多い	入学時	6.9	25.0	30.5	27.7	9.6	0.3
	卒業時	16.5	41.2	23.5	14.1	4.6	0.2	



Q16. 以下のそれぞれの文章について、あなたの大学に入学した当時の考え方、また大学を卒業した当時の考え方について、あてはまるものを選んでください。(1つに○)

		とてもそう思っていた	ややそう思っていた	どちらともいえない	あまりそう思っていなかった	全くそう思っていなかった	NA	
1	無理をしなくてもこの先の人生でも、私は信頼できる人と出会えるような気がする	入学時	16.8	35.2	27.1	17.3	3.5	0.1
	卒業時	22.0	36.6	24.2	14.0	3.0	0.2	
2	相手が自分を大切にしてくれるのは、そうすることによって相手に利益があるときだ	入学時	4.0	17.0	28.1	37.1	13.6	0.3
	卒業時	4.6	18.5	27.5	34.9	14.2	0.3	
3	私は現実に信頼できる特定の他人がいる	入学時	33.5	32.6	17.7	12.5	3.5	0.2
	卒業時	54.8	31.5	8.3	3.5	1.6	0.3	
4	自分で自分をしっかり守っていないと、壊れてしまいそうな気がする	入学時	10.4	23.3	24.5	27.0	14.4	0.4
	卒業時	14.5	26.6	21.9	22.4	14.3	0.3	
5	私は、自分自身が、信頼に値する人間だと思う	入学時	11.8	31.0	37.0	15.7	4.4	0.1
	卒業時	13.6	36.7	33.1	13.0	3.6	0.1	
6	気をつけていないと、人は私の弱みにつけ込まうとするだろう	入学時	3.0	11.5	21.5	36.1	27.6	0.3
	卒業時	4.5	13.6	21.1	33.3	27.3	0.3	
7	私は自分の人生に対し、何とかやっていけそうな気がする	入学時	23.4	41.7	22.6	9.6	2.4	0.3
	卒業時	27.5	47.0	16.7	6.4	2.0	0.2	
8	私は、自分自身の行動をある程度はコントロールすることができるという確信を持っている	入学時	19.1	43.7	24.0	10.9	2.1	0.2
	卒業時	24.8	49.2	17.4	6.7	1.7	0.3	
9	一般的に、人間は信頼できるものだと思う	入学時	14.8	38.7	30.6	11.9	3.9	0.2
	卒業時	13.9	39.1	31.0	11.6	4.2	0.3	

Q17. 大学時代の友人(            大学以外の友人を含む)との交流は、現在も続いていますか。(1つに○)

- 多くの友人との交流を続けている 17.0 →SQ17へ
- 特定の友人との交流を続けている 68.6 →SQ17へ
- 大学時代の友人との交流は、ほとんどない 8.0 →Q18へ

(NA=6.4)

SQ17. それはどのような交流ですか。(いくつでも)

- 日常的に会っている 19.8
- 日常的に電話で話している 9.8
- 日常的にメールやインターネット上でのやり取りをしている 33.7
- たまに会っている 78.6
- たまに電話で話している 25.3
- たまにメールやインターネット上でのやり取りをしている 44.0

Q18. あなたは、あなたの大学生活にどの程度満足していますか。当時ではなく、今現在の満足度をお答えください。

(1つに○)

- とても満足している 28.6
- まあ満足している 44.2
- どちらともいえない 7.2
- あまり満足していない 9.3
- 全く満足していない 2.1 (NA=8.7)

SQ18. 上記のようにお答えになった理由をお書きください。

大学時の就職活動についてお聞きします。

Q19. 大学を卒業した後、あなたの就職までの状況についてあてはまるものをお選びください。(1つに○)

1. 卒業してすぐ、民間企業に正社員として就職した 65.6
2. 卒業してすぐ、公的機関(公務員、教員等)または準公的機関(独立行政法人等)に正規職員として就職した 8.6
3. 卒業してすぐ、正社員・正規職員以外の雇用形態(契約社員・嘱託、アルバイト、パート、業務委託等)に就職した 8.5
4. 卒業したあと、就職するまでにブランクの期間があった 9.7 →Q34(12 ページ)へ
5. 就職しなかった 6.4 →Q50(14 ページ)へ

(NA=1.3)

Q20. 就職活動に関する具体的な行動(就職情報サイトに登録する、ガイダンスに参加するなど)を起こしたのはいつ頃でしたか。※留年された場合は、通算で数えた年次でお答えください。(2度目の4年生の時なら、「5年生」とご記入ください)

( )年生の( )月頃

Q21. セミナーや説明会に参加した企業は何社くらいありましたか。 N=3077

およそ( 27.9 )社

Q22. OB 訪問はしましたか。した場合、何人に会いましたか。 N=3077

1. した 37.8 →( )人
2. しなかった 61.2

(NA=1.0)

Q23. 実際に選考に応募した(エントリーシートを提出した)企業は何社くらいありましたか。正確に覚えていない場合は、おおよその数をご記入ください。 N=3077

( 23.6 )社

Q24. 面接に進んだ企業は何社くらいありましたか。正確に覚えていない場合は、おおよその数をご記入ください。

( 11.9 )社

N=3077

Q25. 内定をもらった企業は何社くらいありましたか。正確に覚えていない場合は、おおよその数をご記入ください。

( 2.1 )社

N=3077

Q26. 就職活動中の、下記の各活動はどの程度熱心に取り組みましたか。(1つに○) N=3077

	とても熱心に取り組んだ	多少は熱心に取り組んだ	どちらともいえない	あまり熱心に取り組まなかった	全く熱心に取り組まなかった	NA
1 自己分析	27.9	38.4	11.0	14.6	6.2	1.8
2 企業探し	32.1	35.4	11.9	12.7	6.0	1.9
3 エントリーシート作成	35.5	35.6	10.6	10.1	6.3	2.0
4 面接対策	23.1	33.9	16.1	17.6	7.5	1.8

Q27. 下記のうち、自己分析やエントリーシートの記入、面接等にあたってとった行動があれば○をつけてください。

(○はいくつでも) N=3077

1. 大学の先生への相談 12.2    2. 大学の就職課・キャリアセンターでの相談 37.2    3. 友人・知人への相談 67.7  
4. 親・兄弟・親戚への相談 44.3    5. キャリアコンサルタントへの相談 6.7    6. マニュアル等の活用 50.6 (NA=7.7)

Q28. エントリーシートや面接において、あなたは自分をよりよく見せるための工夫(事実より大げさに書く、本音とは違うことを言う、など)をしましたか。(1つに○) N=3077

1. かなりした 8.4    2. 少しはした 50.0    3. どちらともいえない 7.0    4. あまりしなかった 22.1    5. 全くしなかった 10.8  
(NA=1.6)

<あなたが「最終的に入社を決めた企業」についてお聞きします>

Q29. その企業への入社を決めた(就職活動を終えた)のはいつ頃でしたか。

※留年された場合は、通算で数えた年次でお答えください。(2度目の4年生の時なら、「5年生」とご記入下さい)

(            )年生の(            )月頃

Q30. その企業は、次のうちどれに該当しますか。(1つに○) N=3077

1. 就職活動当初からの第一志望企業 17.3  
2. 当初は違ったが、就職活動を進める中で第一志望になった企業 47.6  
3. 1、2以外の企業 32.9

(NA=2.2)

Q31. その企業に入社することについて、どの程度満足していましたか。(1つに○) N=3077

1. 大変満足だった 35.7  
2. まあ満足だった 43.4  
3. どちらともいえない 10.1  
4. やや不満だった 5.8  
5. 大変不満だった 2.7

(NA=2.3)

Q32. 以下のそれぞれの文章について、**就職活動終了時点ではどのように思っていましたか。**あなた自身がどのように思っていたかを回答してください。(それぞれ1つに○) N=3077

		かなりそう思っていた	ややそう思っていた	どちらともいえない	あまりそう思っていなかった	ほとんどそう思っていなかった	NA
1	自分の能力・スキルは、自分が自律的に高めるべきだ	48.3	42.6	5.6	2.5	0.2	0.9
2	ビジョン・理念に共感できない会社では、働きたくない	35.9	38.8	14.9	8.1	1.5	0.9
3	キャリアの勝ち組にはなれそうにない	12.2	23.9	31.1	22.1	9.5	1.2
4	面白い仕事であれば、給与が少なくても構わない	13.7	33.1	19.1	24.9	8.1	1.1
5	社員の成長をサポートしてくれない会社では、働きたくない	24.0	46.1	17.3	9.9	1.7	1.0
6	自分の専門領域を早くに決めたい	14.6	23.5	26.9	26.6	7.6	0.9
7	一つの会社で長く働きたい	30.3	27.2	18.0	15.4	7.9	1.0
8	働いている時間より、プライベートの時間のほうが大切だ	18.3	24.7	30.9	20.7	4.5	0.9
9	自分にとってよりよい会社があれば、転職するのに抵抗はない	28.7	30.8	16.9	17.0	5.7	0.9
10	働いている時間とプライベートの時間をはっきりと区別したい	38.1	35.2	13.6	10.1	1.9	0.9
11	責任ある仕事を任せたい	31.7	38.9	17.2	9.0	2.3	0.9
12	普通に働いて、それなりの暮らしができれば十分だ	18.4	39.1	18.8	17.2	5.7	0.9
13	働いている時間を充実させることは、人生を充実させる上で重要だと思う	40.9	41.8	10.4	5.2	0.9	0.8
14	キャリアの勝ち組になりたい	17.3	27.1	23.6	20.6	10.5	0.9
15	自分にとって、働くことはお金を獲得するための手段にすぎない	6.5	17.7	23.4	36.1	15.4	0.8
16	自分らしい職業・仕事に就きたい	46.7	38.8	9.9	3.2	0.6	0.8
17	自分の進む道(職業・仕事)は、誰になんと言われようと自分で決めたい	30.3	37.0	20.2	10.7	0.9	0.9
18	何かを得るための手段としてよりも、働くこと自体を楽しみたい	23.0	40.6	22.0	11.4	2.0	0.9
19	会社・職場の人々とは、友達のような関係でいたい	10.1	26.3	30.5	24.2	7.9	0.9
20	自分のためにならない会社なら、転職するだろう	27.0	32.9	22.7	13.3	3.1	1.0
21	仕事を通じて、自分自身を成長させていきたい	54.3	36.3	5.9	2.1	0.4	0.9
22	一方的に指示命令を受けるようなスタイルの会社では働きたくない	23.7	34.5	26.6	12.5	1.8	0.9
23	自分に合った職業・仕事に就きたい	56.3	35.8	5.4	1.3	0.3	1.0
24	自分の適性に合った仕事の機会を提供してくれる会社で働きたい	39.6	42.5	13.6	3.0	0.4	0.9
25	会社・職場の人々とは、一定の距離を置いていたい	8.6	25.8	33.8	26.3	4.6	0.9
26	働いている会社には、愛着や一体感を感じていたい	25.5	44.7	19.6	7.8	1.5	0.9
27	働くのは、自立した大人にとっては当然のことだと思う	57.4	32.2	6.4	2.4	0.6	0.9
28	仕事のやり方・進め方は自分に任せてほしい	11.0	28.6	39.5	18.0	1.9	0.9
29	働くのは、自分自身の能力や人間性を高めるための手段である	24.8	47.6	18.6	6.9	1.1	0.9
30	フリーターとして働いてもいい	3.0	5.9	7.5	16.1	66.5	1.0
31	5年後、10年後のキャリアプランを明確に決めて働きたい	9.3	24.0	27.8	29.3	8.5	1.0
32	やりたいことができないのなら、働く意味がないと思う	6.3	16.4	26.9	35.6	13.8	0.9
33	所属する会社を成長・発展させるために働きたい	10.2	29.2	25.4	24.6	9.6	0.9
34	社会のためよりも、自社の利益の追求のために事業を行っているような会社では、働きたくない	13.6	30.9	34.2	16.7	3.6	0.9

		かなりそう思 っていた	ややそう思 っていた	どちらともい えない	あまりそう思 っていないか った	ほとんどそう 思っていない かった	NA
35	勤勉に働くのは、大切なことだと思う	37.6	49.2	9.0	2.7	0.6	0.9
36	仕事を通じて、高い専門知識や技術を身につけたい	34.2	44.2	13.6	6.3	0.6	1.0
37	名前の知られた会社で働きたい	27.7	39.7	15.2	11.0	5.2	1.1
38	緊張感のある職場では、働きたくない	4.7	18.2	35.4	32.2	8.3	1.1
39	自分が何に向いているか分からないので、いろいろな仕事・職種を体験したい	12.8	32.2	24.6	20.9	8.5	1.0

Q33. あなたの就職活動は、全体的にどの程度充実していたと思いますか。(1つに○) N=3077

1. とても充実していた 15.8    2. まあ充実していた 43.4    3. どちらともいえない 20.0  
4. あまり充実していなかった 13.7    5. 全く充実していなかった 4.6 (NA=2.5)

転職についてお聞きします。

Q34. あなたはこれまでに転職をしたことがありますか。(1つに○) **N=3438**

1. ある 23.2 →Q35 へ  
2. ない 74.8 →Q41(このページの一番下)へ

(NA=2.0)

<転職したことのある方全員にお聞きします> **N=796**

Q35. 大学を卒業して最初に就職した会社の業種は何でしたか。(1つに○)

1. 農林漁業 0.4 2. 鉱業 0.0 3. 建設業 0.6 4. 製造業 5.8 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 0.3  
6. 情報通信業 14.7 7. 運輸業 2.5 8. 卸売・小売業 13.9 9. 金融・保険業 14.6 10. 不動産業 2.9  
11. 飲食店・宿泊業 1.5 12. 医療・福祉 3.0  
13. 教育・学習支援 10.4 14. 郵便 0.3 15. サービス業 25.4 16. 公務 2.8 (NA=1.0)

Q36. 大学を卒業して最初に就職したときのあなたの職種は何でしたか。(1つに○) **N=796**

1. 営業職 29.0 2. 事務職 27.9 3. 企画職 3.1 4. サービス職 11.3 5. 販売職 6.7 6. クリエイティブ職 3.1  
7. 専門職 7.8 8. 技術職 1.7 9. ソフトウェア・ネットワーク技術職 2.5 10. その他 5.4 (NA=0.4)

Q37. 大学を卒業して最初に就職した会社の従業員数(常用雇用のパート・アルバイトを含む)は、会社全体でどれくらいでしたか。(1つに○) **N=796**

1. 4人以下 1.6 2. 5~9人 3.4 3. 10~19人 4.5 4. 20~29人 3.6 5. 30~49人 3.9 6. 50~99人 7.3  
7. 100~299人 12.6 8. 300~499人 8.5 9. 500~999人 10.9 10. 1000~1999人 11.1 11. 2000~4999人 11.4  
12. 5000人以上 19.8 (NA=1.3)

Q38. 最初の会社を退職した理由は何でしたか。あてはまるものに○をつけてください。(いくつでも) **N=796**

1. 契約期間の満了 3.9 2. 会社倒産、人員整理・解雇 4.5 3. 結婚 4.5 4. 育児 0.5 5. 介護 0.1  
6. 自分のけがや病気 5.8 7. 賃金への不満 17.0 8. 評価への不満 7.8  
9. 勤務条件(勤務時間、休日数、勤務地など)への不満 30.9  
10. 職場の人間関係への不満 20.6 11. 肉体的にきつい仕事だから 13.4 12. 精神的にきつい仕事だから 26.4  
13. 自分の能力や専門性が仕事に活かさないから 12.6 14. 仕事を通じて成長を実感できなかったから 24.6  
15. よりよい仕事や会社が見つかったから 24.2 16. 会社の将来性や方向性への不安 26.1 17. その他 16.0 (NA=0.3)

Q39. 2番目に入った会社での働き方は次のうちどれでしたか。(1つに○) **N=796**

1. 正社員/正職員 61.2 2. 契約社員/嘱託 16.8 3. フリーター 7.0 4. パートタイマー 3.5 5. 派遣 7.4  
6. 業務委託 1.4 7. 自営業/家族従業 1.5 (NA=1.1)

Q40. 最初の会社を退職したのは、入社して何年目でしたか。あてはまるものに○をつけてください。(1つに○) **N=796**

1. 1年目 33.0 →Q42(次ページ)へ  
2. 2年目 31.2 3.3年目 17.5 4.4年目 9.7 5.5年目以降 3.6 (NA=5.0) →Q41(下)へ

<転職したことのない方と、最初の会社を2年目以降に退職した方にお聞きします。> **N=3066**

Q41. 最初の会社の1年目に、会社を辞めたいと思ったことはありましたか。(1つに○)

1. 常に思っていた 11.0 2. よく思っていた 19.0 3. たまに思っていた 23.4  
4. ほとんど思ったことはなかった 21.0 5. 全く思ったことはなかった 21.8 (NA=3.8)

<以下は全員にお聞きします>

社会人1年目の時のことについてお聞きします。

現在1年目の方は、最初の会社に入社してから現在までの範囲でお答え下さい。

Q42. 新卒で入社した会社の実態は、入社する前(就職活動中～内定期間)に想像していたものと比べてギャップがありましたか。また、それらの実態に慣れるまでに、どのくらいの時間がかかりましたか。(それぞれ1つに○)

		ギャップがあったか				慣れるまでに時間がかかったか			
		かなりギャップがあった	多少はギャップがあった	ほとんどギャップはなかった	NA	すぐに慣れた	多少慣れるまでに時間がかかった	全く慣れなかった	NA
1	最初の配属先の決定	19.7	25.7	53.6	1.0	51.3	40.3	6.8	1.6
2	教育研修	16.8	30.2	51.9	1.2	60.2	31.0	7.0	1.9
3	会社の事業方針・ビジョン	9.5	24.1	65.2	1.2	61.0	29.2	7.9	1.8
4	社内ルール・常識	21.7	33.3	44.0	1.0	47.4	40.5	10.5	1.6
5	担当した仕事内容	24.8	36.6	37.8	0.8	35.4	52.6	10.5	1.4
6	評価のしくみ・実態	17.6	34.8	46.7	0.9	48.4	39.5	10.5	1.7
7	上司	22.8	34.3	42.0	0.9	47.5	37.8	13.2	1.5
8	同僚・先輩の能力や資質	18.9	34.5	45.7	0.9	53.2	36.3	8.8	1.7
9	職場の人間関係	19.6	32.5	47.0	0.9	50.8	36.8	11.0	1.5
10	勤務地	10.1	13.8	75.2	0.9	76.2	18.2	4.0	1.7
11	勤務時間・休日	17.4	21.8	59.9	0.8	62.7	28.2	7.6	1.6
12	給与・福利厚生	13.5	25.3	60.3	0.8	69.4	21.6	7.4	1.6
13	会社に勤めるということ全般	12.7	37.6	48.8	0.9	46.9	45.4	6.3	1.5

Q43. 1年目のあなたの仕事の難易度は、どの程度だったと思いますか。(1つに○) N=3438

1. とても難しかった 22.7    2. 多少は難しかった 43.0    3. どちらともいえない 11.1  
4. あまり難しくなかった 17.3    5. 全く難しくなかった 5.4 (NA=0.5)

Q44. 1年目のあなたの仕事の達成状況は、どの程度だったと思いますか。(1つに○) N=3438

1. 高い成果をあげていた 7.9    2. そこそこの成果をあげていた 44.2    3. どちらともいえない 27.3  
4. あまり成果はあがらなかった 16.4    5. 全く成果があがらなかった 3.6 (NA=0.5)

Q45. 1年目の間に、信頼できる先輩や上司に出会えたと思いますか。(1つに○)

1. とてもそう思う 37.4    2. 多少はそう思う 37.5    3. どちらともいえない 9.5  
4. あまりそう思わない 7.5    5. 全くそう思わない 7.6 (NA=0.4)



以降は、現在のあなたのお気持ちやお考えについてお聞きます

Q46. あなたは現在の会社に満足していますか。(1つに○) N=3438

1. とても満足している 18.2    2. まあ満足している 47.0    3. どちらともいえない 15.3  
 4. あまり満足していない 11.8    5. 全く満足していない 5.3 (NA=2.4)

Q47. あなたは現在の仕事に満足していますか。(1つに○) N=3438

1. とても満足している 18.5    2. まあ満足している 44.6    3. どちらともいえない 16.0  
 4. あまり満足していない 12.5    5. 全く満足していない 6.0 (NA=2.4)

Q48. 新卒で就職した当初と現在を比べて、あなたの仕事に対する意欲はどのように変化したと思いますか。(1つに○)

1. 非常に高くなった 20.8    2. 少しは高くなった 34.7    3. 変わらない 19.5  
 4. 少し低くなった 17.3    5. 非常に低くなった 5.5 (NA=2.3)

Q49. あなたは、現在の仕事をしているなかで、自分が成長したとお感じになることがありますか。(1つに○) N=3438

1. よくある 27.6    2. ときどきある 53.9    3. どちらともいえない 9.3    4. あまりない 5.5    5. ほとんどない 1.3  
 (NA=2.4)

Q50. 以下のそれぞれの文章について、あてはまるものを選んでください。(1つに○) N=3438

		かなりあ てはまる	どちらか という あてはま る	どちらと もいえな い	どちらか という あてはま らない	ほとんど あてはま らない	NA
1	過去において自分をなくしてしまったように感じる	6.4	16.6	19.4	29.2	27.5	1.0
2	自分が望んでいることがはっきりしている	22.3	39.4	21.8	13.2	2.6	0.8
3	自分のまわりの人々は、本当の私をわかっていないと思う	6.1	20.2	29.5	32.2	11.1	0.9
4	現実の社会の中で、自分らしい生き方ができると思う	13.2	41.1	26.6	14.3	4.0	0.8
5	過去に自分自身を置き去りにしてきたような気がする	5.7	14.4	17.7	30.1	31.1	0.9
6	自分がどうなりたいかはっきりしている	20.5	34.0	23.8	16.9	4.0	0.8
7	自分は周囲の人々によく理解されていると感じる	6.3	32.9	34.3	21.5	4.2	0.7
8	現実の社会の中で、自分らしい生活が送れる自信がある	12.8	40.4	27.9	14.8	3.2	0.8
9	いつのまにか自分が自分でなくなってしまうような気がする	4.3	12.4	17.9	32.1	32.5	0.9
10	自分のすべきことがはっきりしている	20.1	38.7	23.7	14.1	2.7	0.8
11	人に見られている自分と本当の自分は一致しないと感じる	7.2	29.0	28.4	25.0	9.4	0.8
12	現実の社会の中で自分の可能性を十分に実現できると思う	10.8	34.5	35.3	15.9	2.7	0.9
13	今のままでは次第に自分を失ってってしまうような気がする	5.9	14.3	17.9	30.7	30.4	0.8
14	自分が何をしたいのかよくわからないと感じるときがある	8.5	29.3	20.0	25.5	15.9	0.8
15	本当の自分は人には理解されないだろう	4.7	12.5	25.3	36.2	20.4	0.8
16	自分らしく生きてゆくことは、現実の社会の中では難しいだろうと思う	5.6	18.0	22.2	35.7	17.8	0.8
17	「自分がない」と感じることもある	5.4	16.6	15.4	30.4	31.2	0.9
18	自分が何を望んでいるのかわからなくなることがある	5.5	23.6	18.6	29.7	21.7	0.9
19	人前での自分は、本当の自分ではないような気がする	5.3	18.8	23.7	32.1	19.3	0.8
20	自分の本当の能力を生かせる場所が社会にはないような気がする	1.7	4.4	18.9	37.9	36.4	0.8



以上で質問は終わりです。最後までお答えいただき本当にありがとうございました。

★謝礼（Quo カード）をお送りいたします。

プライバシーポリシーをご一読の上、必要事項をご記入ください。

■■■プライバシーポリシー■■■

お預かりした個人情報（氏名・会社名・電話番号等）は謝礼の発送ならびに、インタビューに関するご連絡にのみ利用させていただきます。原則として、ご本人の承諾なしに、上記目的以外に個人情報を利用または第三者に提供する事はいたしません。ただし、リクルートは個人情報を取扱う業務の一部または全部を外部委託することがあります。

個人情報管理責任者：株式会社リクルート ワークス研究所 所長 大久保幸夫

個人情報の取扱いに関するお問合せおよび情報の修正、削除等は下記までご連絡ください。

株式会社リクルート ワークス研究所 調査研究事務局

担当 豊田義博／阪口祐子 03-6835-9243／works@r.recruit.co.jp



上記プライバシーポリシーに同意の上、以下に記入します。

フリガナ	
お名前	
郵便番号	
ご住所	

★尚、今回のアンケートにご協力いただいた方の中から、何名かの方に後日個別インタビューのお願いをさせていただきますと思っております。そのためのご連絡を差し上げてもよろしい場合は、チェックボックスにチェックの上、ご連絡先を下記にご記入ください。

（インタビューの日程は未定ですが、2010年1月から2月、場所は東京駅近辺を予定しております。また、ご協力いただいた方には別途謝礼をお渡しいたします）

↓チェック（√）を入れてください！

個別インタビューに協力してもよい

メールアドレス	
電話番号	
ご連絡の際の注意事項（時間帯など）	

本調査に関する問合せ窓口

株式会社リクルート ワークス研究所 調査研究事務局

担当 豊田義博／阪口祐子 [03-6835-9243／works@r.recruit.co.jp](mailto:works@r.recruit.co.jp)



**大学生活は、彼らに何を残したのか？**  
～「20代のキャリアと大学時代の経験に関する調査」報告書～

2011年3月発行

発行:リクルート ワークス研究所  
調査・分析:豊田義博、阪口祐子

©株式会社リクルート 本冊子記事の無断複製転載を禁じます

# Works Report 2010

大学生生活は、彼らに何を残したのか？

～「20代のキャリアと大学時代の経験に関する調査」報告書～

株式会社リクルート ワークス研究所

〒100-6640 東京都千代田区丸の内1-9-2

グラントウキョウサウスタワー

TEL 03-6835-9200

# RECRUIT